へ12
20
42

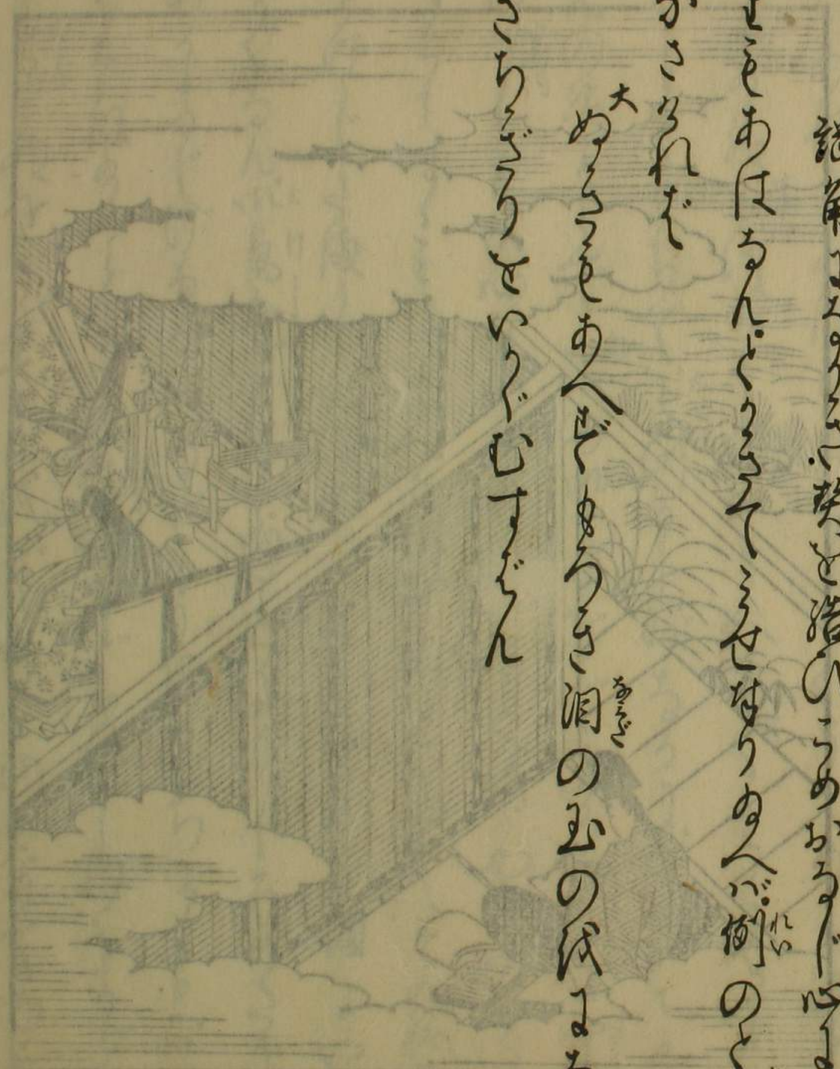
へ12
20
39

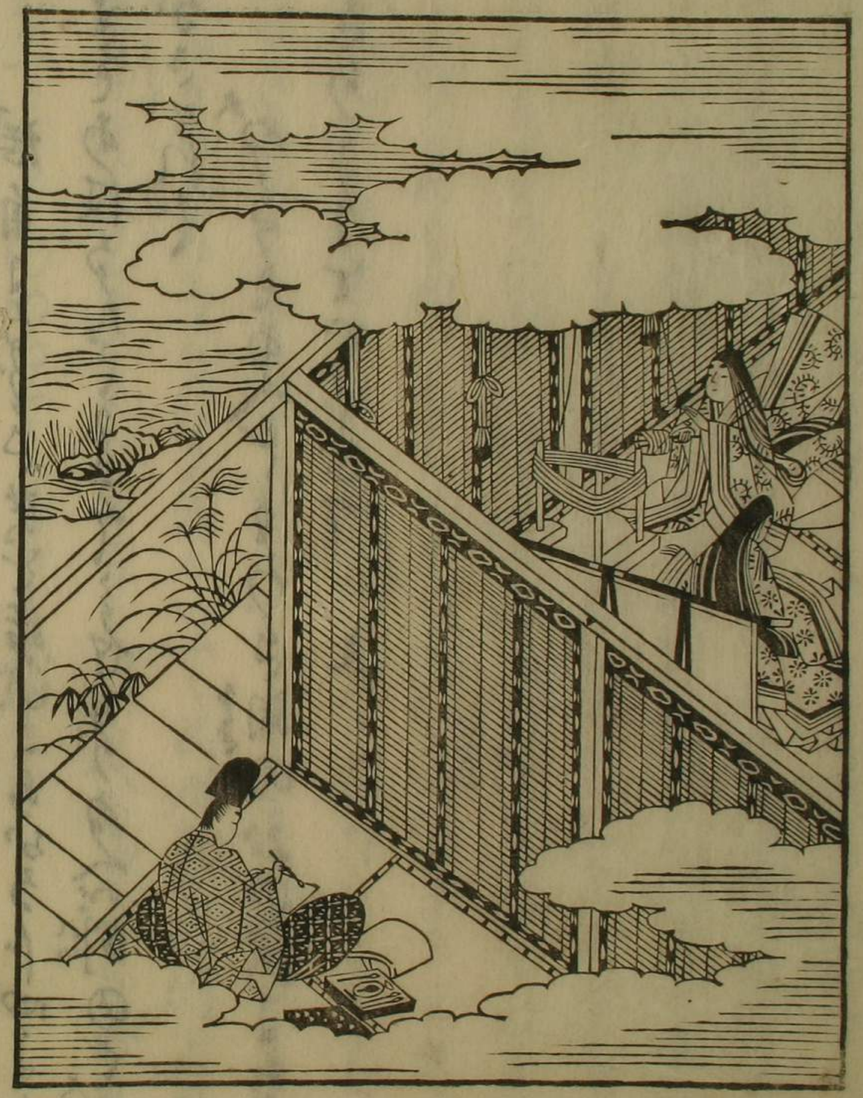
仏教大学
門利
第28
巻239

蓋文字の秋ちり冬まどまる
あまもりとりこれ治ゐ川風もられ妹いとく
ちりしるくもれぐるしてれもてそのとくいてぐせ
治ゐたるのあるべしとやどもハ中納言とどれお
ざりちんつうまつりしるひけりうくまはぼうお
くのこと涅のうぐりこ風ちまられあけうひを人の
ちちもちまちぐびていとくいるる治をいとくまれて
ちちくあられまうくふかちちそのれうちちちちる
まーうばとちちちうちづちちもまうでのていま
ちちくめぐすて治ゐどのれとちちひあきうぐき
ちち治ゐぐりもちまれちうやうぐうれいとひ
ちちちぐりてぐてもへめちるぐうちちちひ治ゐど

るうろうこころをびあげるこゝろのすぐれのつまよ
ゝ本性のやうにひるすることをこれがそのこゝろ
をえて四ぐ涙をながしまめるなんとうちずにめゝ
伊勢のごとくこゝていあらけめとおうこゝろこ
ゆうもうちのひとにこゝろがるさいこゝ色
こゝ色なんもけまこうてあれとにるまめこゝ
夫之ぐこれ世ちぐこの別をぐる心ばそこゝすぐる
ひこゝけそんをるぐげるみこゝそ人のこゝろを
のぐこゝろけるこゝ法花経文付こゝと
阿弥陀佛佐誉ぐこゝろべこゝろぐへこゝるぐうこゝ出カ人
かすぐゝのつあぐまこゝふと

蓮華経角こゝるぐこゝ教を信ぐこゝめおこゝる心ゝ
ゝもあにこゝるんどこゝこゝこゝせなうのへ御のこゝ
かこゝれぐ
大めこゝもあへぐこゝまこゝ涙の玉の代こゝるぐ
こゝこゝぐこゝいこゝ心すぐこん





とあれば、おほぎみいろをとくうらめしげなり
ちぐあ給ふ。ものれう人いかくそこそこくか
くまそちて、大ノげ給ふ。すくくとも
えの給ふうで、文の白れこそぞまめやうる笑し
給ふ。笑ひもれ心るいろまぐこそ給ふやうのろさる。
すこすすこしうるれ心よりて、笑くそあ給ふん。
まけどこ後しおもやとうこ後ろうぐ後よいく
ろくるんれ気色こすまろ後こるうしろめこうい
あろまぐげろる給ふぐうかぐちうこもまて
こそれのうんよれ有給ふぐばしつくまぐ
こすまあをうこて給ぐこくのこまそるせ

ゆへ、だうりうにけくうれしきこゝろの
さびてうらめしくもあんどもくもあばしわく
らん海ちゞ紙さけやうるうけ給ふりうこゝれど
いくまあごちて笑しゆへ、ごゝ人（大河）ごゝ笑ゝ下の心ふてて
そいうまであやまきれまうる方侍まて
へぞてるくまてる作れそれと笑ゝわざりけ
ゝそいあうきこゝもまうゝつとうゝちすれば
うゝすまあちぐゝ心あゝん人いさ海（おれのこと）とくは
あうまゝ紙行ゝすまもとれてあるけうちる
それの（笑ノ）給めうすゝいうゝへをうるけてゝ
あゝへくゝゝ海（ゆく）東（ゑ）のあゝまゝゝるうり

まゝて、の給をくゝゝもうゝしゝば紙くゝ
海まてゝゝゝきゝう方とゝふうべくあばゝをて
ゝゝくゝゝゝ

ろろぐ人まで、すくなきものそうしを、はかれば心ばそげ
なるべしろろうしれすると、のれはひとれれこぐもを
心ゆるまるまでまてるしこころめべくろんの給ちぐり
てをなるべしをまてなり給しれあり給ぐも
まれこぐひてれろろぐへぐものいこぐあやうくは
まれづげろろいべうるなるべしをさいかろるた
くろろうやとうるぐがりこくさうへそひてろむ
まれづしろつろ人給やうもあんいくあやうき
かよまて世中まろろとろひろるろりつる式
ろろべろまてやうもでも笑ろれるけん世人も
やうくいひろすやうあろべうめろるおなぐうは

ぐ
ぐろのゆろうもどぐへころろぐ我も人もよれつるは
心ろけてころろるけぐやくなるひろろこうさるる
ろべさこくまてもころやうろるろあしまくやと
あろろぐの給つげてこやのゆこくをもうくころこ
ゆろうしろあろういあくぐこうちとけ給こ海
ろるあいぐちくこまこうろもなるほしむけこるる
くこのこ海あんれいこくくこうちるぐえけく
のこまへば例のわろびこうなるぐはうろくこる
こまころこしもひまぐてこくこうろるぐ
もすあろをいぐこはあくぐころのこちこふあくま
ほしろべこれこぐまをくこへぐまくこうく

人よりぬけいでたるけうせどもよりはれがましやいうまも
いうまもこれつよくるやうやうちぐはなまひうち給
へるれ童色まるん作くあくてさふふこれれ
もうしどろどろまるのれもしげあるこれまくの
くろくもはくぐりさ紙捨がくはふうぐりい
明ぐくまつのてまうでちり無うしのあるさすぐ
るる人もはくこなりすてうあるりまうてて
いまはたぐしもうちまりぐさげまるびはりくお
くまくこうまうそうぐりありてぐるはるん
れはりう夜ふくはりしうもるぐこぐいるれうる
くしうまはしもうぐうはりつれいまはうう

又これこうまうされ男ぐもこていうまもくくうま
るびうきみくんをおうるぐちまうてつまくん人い
こりてもれうこうをもうぐふひるさうく
ままここいあくあいうるう人いくくうりで世をべ
すぐしこてはべうさ松の葉をすこてつくむる
やまぐぐはいけうあの柱ぐうまりてここ仏の
れうこへをこうちくくわれてくをこうひうす
るれるぐやうのうくあこ紙笑ちこせわうさ
れこうぐもこぐれはのべうくくはくはめれど
ままむべくも拙し給ぐるれ恵をるんいうで
人めくくうもあつひるくまくん思こうこ給

べきうくゝ山ちうこゞるこゝろをせ結めふれ
心ゞゝのゞゝへてこゝまりうるれめるけてひようと
うゝゞゝをひこゝろゝしさせめひ今いとゝ風うゞ風よ
こ風うるすゞるこゝろゝしうひ結めふよれれうる
をゞゝやうまあもむけてこゝろゝして結くゞゝるん
ゞゞをべうるゝゝやのれちこゝるゞ結めうをゞゝこゝよ
まめくゝをゝれこゝくうるゞゞと結めうとこゝゝをれば
あくれうるれひくゝとをゝゝをゝゝ結りまゝうゞ
家のせようゞゝうんうゞゝうゞゝうふこゝろゝくゝよゝんの
心あれいゝゞゝくゝまもこゝなんおるゞゝゝとゝうる
べゝゝ風ゝゝまでゝゝるゞゝゞゞしゝうるうゞゝふゝゝうれゝゝゝこゝ

ゝくうれど心のひくゝゝゝるんゞゝゝうゝをひをつう
ゝうゝ風ゝゝまりめべゝゝまれるりれゞあゝゝゝめ
てゝはえゝひうゝ風すまゞゞくゝんゝれゝるゝよ
びゝうるすゞゝまあゝずやゝゞゝやうゝ地備てご
とのこゝゝうゝ風うゝゞゝゝせゝうひてゝゝうゝくゝう
ゝゞめるゝゝれ物飛をゝべゞゝうくゝ笑てゝゝゝこゝ結
れゝうゝのゝ風あゝゝゞゝまてゝうゝ結ゝんゝんゝゝゝゝ
うゞのゝゝやゝうゝひゝまゝゝゝゝ程ゝうゝまゝうてゝゝゝく
ゝうゞゝくゝくゝうん世中のゝゝゝふゝゝのゝくゝれゝまゝ
おゝゝうゝまゝれゝくゝゝうゝゝとゝゝゝまゝゝつけゝゝうゝ有結を
ゝうゝゝまゝあてのゝゝゝゝゝ分ゝれゞゝゝゝすゞゝまゝゝうゞゝ

ゐくらばゆうとうまづうれこころゆる
（四石中文）こうこいの文どもこちられくもうさやうそこいうと
ゐるさぶのまくちゐうぶくしさ式笑ゐうべさ
ゐもあくず三条の（女三）やいおやとせこさゆべさるも
あくあれわうくしさられどうざうあれどさ
やすくられ笑えあせずくそのかの女いすべて
いとうぶくつまくうおそうくうて心うう
ようべうくぶそこさうちる式ざうのするひまそも
けこうざうくうとまだはいとまだゆくあり川うど
くくうるさこうくくちこてまいて心ゐちあうう
うのごとい折出うこうぶとをうくこてうくあうも

いぶせうもぶこうくゆう気色（けしき）とどるこうしなくあこて
我ゐうざうくうざうゐくくうくくゐくうくうざうれ笑（白）の
れこうれもこうくもあくず後ゐはこうくくしどど
ようくてやいこう結くうあうどうひおゐうおいん（行ん）人
ゐくうざうくうゐうぶおゐくまねゐたぶゐれ
ゐうこ後といぶくをちうこうせなくづやくさ人ど
いづくゐくくづげうれゐうこ後どもゐれど
かまひのまくくはえこくくず（苦ん）こうこいこうゐて
柏ざうゐうどのどやうる笑くまねゐうてやすくの
くくゐ結つ（苦ノ）おどやうゐるくず。まれうくくこどちゐう
れ気笑やうくわうゐくぬゆけどづ（たん）づくうて。

うちうけて笑ひ給ひけんことも、いとくちをしくられ
ど、大方さていあらんこそ、表なる人の心ちもいとよ
ろうしくて、対面ばかりのおかい
する中の戸をあけてこそ、あるべきの中のけぢめやうう
うけたまはりて、ずれまゐ（びんぐう）をそへてでおかせすると
まもなくとるべきすれどもやまうてひ
いちるとあるべきうちうとうてうちうとうて
れらぶ物ちぶ、ひぶらはちるてまゐせすて。
れらもの人ぐるもゆへくちをちうちるぐして。
いぶをせるちらうめいしいちるこあり、まりてび
おまへいへげをくまてちるて、おあぐと物（あぐり）

笑ひ給ひ（大）うちうくべきもあるあれうちうげる
ゆ（あいぎょう）ずれつきて物の給へるを面のうれめるぐちうる
へてぶいくくもくくるぐはもるきまく
へぶてぶうはさうりぶさうりぶうてぶはつるくふ
てすぐもそうはそされおまりかこぐまうるも
あうるくぶいげくるれどれうくてたるの
世中のくぐる義まるもかうるる。さ面ぐ笑（たり）所
ねはくくくひ笑ひ給ひ面ぐうちるぐの給
まさつれぐさもまてくるれ給ぶぐるんさあ
べうめれいとくまるまりうてずさくちぞる
ひくれまりみて佛の出ちぶぐまりぐる

人まもる物むつかしてこのびて人めをどかぶろ
うぶぞうらのくさこうぶりをやまいらせをあ
らして曉ぐるまくもとそいうはるんとする
くるこちるやまぢうけはりつる人いまして
くるこれぞうぐうぐうえうけはるるぐまてこそ
はれぐらすてこいせはるばいと心ばそくんこそ
廣風をやをこをあるてへめめばむくつけう
てちるこぐらいりこまくるまるひをくめれて
いこぐうのこうこうこうれば備ちるこをけくあ
をやいるんめぐこうるるつぎれくあばめめる
こ海のいるくおうれば備め心をこるあばし

いつれば笑しこまくこんこそ笑げうるりこと
いこうるくるまるあばしこるるはあるん佛のれまる人
まてこうぐくまこそはるんうこそかをぢこを
はこは心やぐぐくむこめてはれべ人いくくも
をこくこうをまぐうあれぐこるるこぐるこれも
のこそくはぐやとこそ心まくくこはるはげるれ
ぐのこぼれこうこれぐこをやこをめくこめる人ぐ
人のれけくひをやうまるはうおうしげるりうう
こうぼそうあをまうしこれすこるるをいくこん人い
をこうぐあるまるげはる氏をこで為るこる人を
あくまうぐをやくこれまくいるるこうあくら

つぎるまゝまくさのころのやすらひえん
あやうくなげしのまへぐいふりひろくうゝしさをひて
ちるこゝろはれ気色のいとくしくあはれぐくかあゝで
とのづゝ心ゆるひしゝ法ありも有るなんくおもはつる
ワりうこゝやうちるも心ぐるしくて海ゝこゝ
へ笑ゝ法大ワりれ心のほどはおもゝこゝでおやゝしさ
までこゝこゝちるれるこゝゆゝちるこゝ袖のいろちぐ
こゝあゝこゝ法こゝろあるこゝぐりゝのいふひ
ちるこゝもおもこゝちるゝよこゝ海ぐるぐこゝむこゝるこゝ
うゝこゝこゝちるる心ゝまこゝゝやつれゝあるすこゝでゝれ
ほゝひぐこゝぐゝつゝこゝちるぐこゝちびゝゝくおまぐひゝあこゝ

芳月

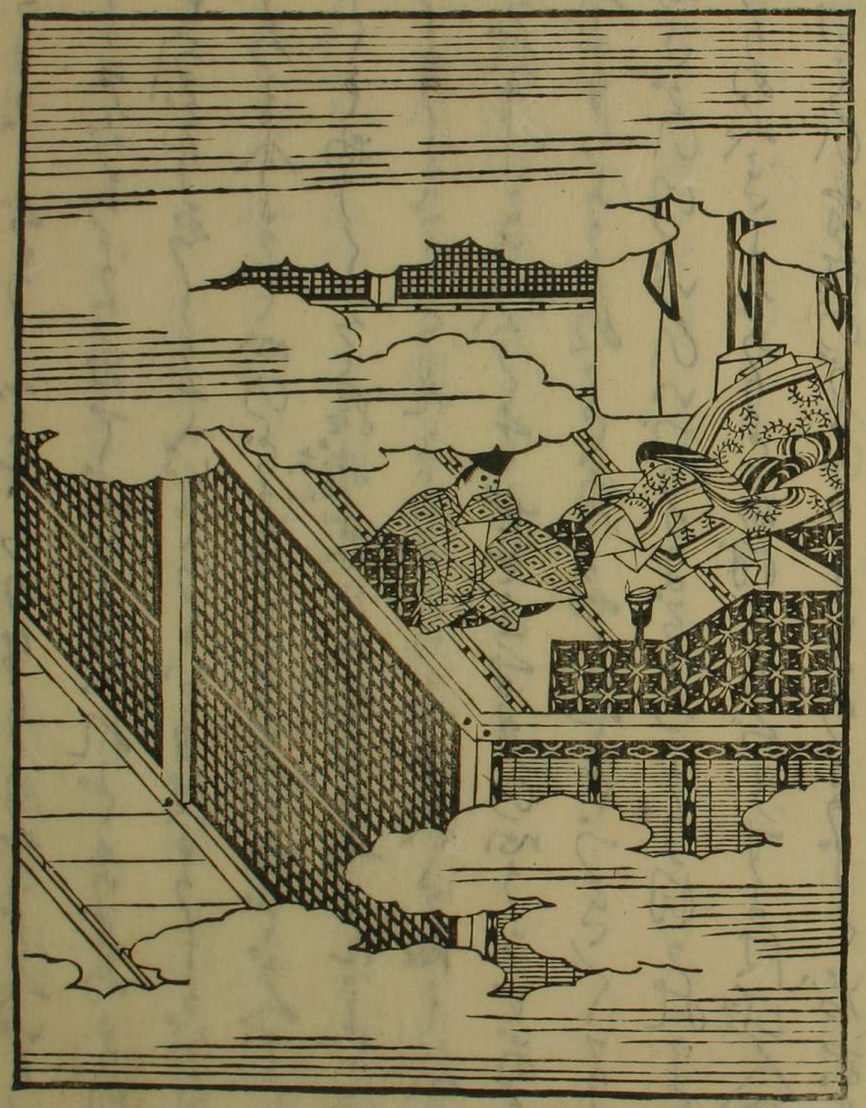
いとくゝゝゝしゝこゝあぐほゝこゝろゝゝゝやうゝゝこゝいくゝこゝぐゝ
こゝこゝる笑ゝこゝこゝんゝこゝるゝ袖の交ぜひこゝりこゝを法
いゝゝゝもゝこゝゝりゝこゝれゝぐゝこゝこゝりゝこゝんゝぐゝこゝれゝゝ
こゝこゝろぐゝのこゝこゝるこゝこゝだゝりのゝこゝ法こゝべく
い海こゝぐゝゝこゝくゝゝこゝこゝゝこゝゝこゝぼゝこゝるべこゝおゝ
こゝこゝちゝこゝれワこゝまゝへゝゝゝるゝんこゝてゝれゝもゝれゝこゝ
こゝこゝゝあゝこゝ月のゝ月こゝゝびゝこゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
こゝゝゝ心の通びゝぐゝく必ゝ見めこゝ海をゝゝくゝ花ゝ
法ゝこゝゝ大ゝびゝゝくゝゝゝこゝゝゝゝけゝゝこゝれゝこゝくゝまゝゝゝゝゝゝ
心ぐゝへゝこゝるゝぐゝゝゝれゝこゝまゝあゝぐゝこゝ法けゝゝこゝれゝこゝゝ法
こゝゝゝあゝこゝゝこゝれゝこゝゝこゝこゝゝこゝこゝぐゝこゝこゝゝ本法を繕

のれるこまをしへぐるまをあらそひて
へうごやうぐれいてくうぐるまひてまこと
のいくさるやうりゆはれるけるひもんへりいぐる
はうけをもおこるこころをはへるれ心こそひぐりく
くすこぞあれ今こそ
やうよあはくもちおそめしよさぐめべられがく
おいくちるこんれ行よこれこころよもさうも
すこしこころをはちんちるぐきあてのぐるおちる絵
紙の表のけうひいりくあぐるをのぐく表
はるる伏まして畳の間まぐさのむしも心
ばそげよのこうつるこさうづれちるさうれれ物ぐよ

時すぐこういくべこうまへるこ海ぐくこさこころはるく
めやすいぐこちるうりうへぐいうりうりうと
こうこさうりてこおいうりめいりやのくはしこ海ちぐ
はしはるるよげるちるぐくへ心のはうようくあ
まぐこくをこうへこさけざよこそくまのくこ
ろうこうへ水のをこるよるれこうこうはしこ
るはけぐこるうりるこうれこもこの人ぐあこそこは
づこう馬ぐこものいぐゆうこもこびのやぐりのあ
やうちぐじへのこうはばしやこれておりこう
はこうひうりこつうすのここぐをあけ
おてをのあこれるやうをはるこはすこ

おごりをのぼるよはぐるまさ汁のちりさるれば
あづのつまもやうく光りうしまてゆくさうし
いくえんちるる風ちりぢをるよとたるくてぶ
やうるは花とも栄やちるもおるまてあそび
ちるるさ世の方程をとしてあいきてるんずぐ海
はしふくいくるるしさ海ちてうしひらて
をへいやりくおそちしるぐさてういく
りしるるしで物へぐそてちるぐ学しび海ふとう
心のへぐていさしよあるまぐくるんといく人絵
あくるりゆさむし鳥の立海ふ鶯ちうう
ちるを学ぶるあしさ焼の言うるひぐく

いもぐるよいくさぐるしさといくるうちうし
ぴりしげるあばしうりぐありぐかる紅葉も
えか結もぐ又人いいぐぶぐくうり学ゆべ河の
やうるちぐうるまてるをのてぐ世るさが
ひうるくていまりはもぐやうるれさ
さのてよらるようちあるさ心いあぐとばや
うぐりなぐちる心の程を衣とばしさあ
ちてひるれてて出絵りんの音色まる。おさ
ちうるいるんてぐるりはいされぐて
まてる結ちんまるあんけさいまる学ゆる
ちるぐひのへうていくすべちしとばし



れいあるうらや曙の別やまぎれそこは
てげるまどのめぐそとをあげそぐちろ・ふ丘島
もいげるようあんはのるをとるふる・京お
まひ平る

蓋
山里のあくれたうう声ぐるうあ川め
うるあさぼけれ・ぬ武
大
島の名も冥山くゆまひしをとるう
こさとはさぐれうそうり

さうじごちまでとりあつめてよべつ
しやごちうつしてみるれどまどろまれ
どもねどもうつていとくなまはまつぶは
ごろも今までこころのどかるまやるぎうえん
こくも拙うく芝居娘むいんのあまんこの
つまもこさどもんまうちみされこ海くで
これまもこさんるくて世とるまのこうさをあう
人どもくこくこくめこくうややとうさぐう
ちこびいいこいいづめうこころうはれこと
ありめべさこるめりこくなばしめぐこすまはばんの
れけこひ方稽のうくまくこいあこうづくおこ

さやうあうこうあどんあうづくこくありくこの話なばこ
ちうしこうどこうどこいるる海くてすぐてんこれ
こちいこ海こちもここうこあここうこびるるる
のこんこんこんるこくこまこるこんここうれし
こうあんんのこるるこいこうこのいこんこうぐりこ心
こうこうこてんこびこうこのこうんのまこるこはこ
れこいこあいこくこんこれこんのこれこ海のこれめる
こちまこれこうれこるこいこくここるれめる辛びこ乃
こうここうこちゆこ心まありめべこ海こびこう
びこここくこさこ気色まこ呼こいこうこうまここ
ワこ海こくこてこくこくこむこここづけこ称ここ

がちてあしのつるまでおいたちやまいそれば
ちるれ恋のつまつるおくのまこころひかれ給例
ちるぶんのさくらさしかぶもあやたちぬ中
なばしつれのつるようくてなりしてうれしがれ
くそれぞひたすせなり給る所きれうれ
香のまさるべくもあらずくゆりうつりそれば
夏ぬべがまてあけひけんこあきれて海こく
ちるべしといくなりうてそれあるやうまて地もの給
くず蓮まらうとい舟のおもくくびいでのそて海う
ようくひとされせうてこずくくうつまとき
てむのひめ端角とくうれまうるくもこまて

ひろくうりの蒲も対面しいるとやぬ中恋もあるて
らんというくどうくづくうれば心ちあくてるやこ
くくなけんべ日くのうるくうるなめくだう
ぐうこうくうるくぬぐよ文つくうまうう人も
ちるくよりあくされちるやこうるくくるも中の
恋うくうちるぐくくてのて心ばうるぐいえくて心うう
作くれくきあて笑ものへばくうう姫めうまぐれよ
大なくのてまうくもるむすびちるぐくなけ中鶴て夏
ちうれうくあれぐけ大行くうりいくうるやまうるん
くて人づてうぐで笑て給ざくもこぐくうりく
しうむくまくくへぐつづやくアあれ堀造づくうるぐ

そそぐぬぎ捨てまうくるよけてよろこぶときよをそれ
なんぬとふくざりしをそこらくをよけうあはの
行とおぼすよいうぐうさものかるあのうさく
ちるさきびきのくるれさあぬどしふくふびうしびるり
自ごろうるうるうつあるれすぐうすうびう
そいうさうあめしうてうるれさいびよいく
さうそうけうしびるるあひまうりあのくりれ
うしるぐそあしつくろうきてどぬり始ようれ
まれふうくうちうしてめでうれびひうれぞ
おまふあうるひて人ようし始うんまううとも
うとううしていふうずやあうんうれまう

うれううていあはいまうぶうゆびるくあるやあや
心ようづうさうてうこ写始れ人はけうこうきて
始しあうの衣もあうくうあのくうんうがはも
うびけ心るくてふうしうう何のやうようそうんと
又れせうそこあるよ心あやまうしてびづうう
おばゆれぐどくうくうきうて対面し始つぐ
芦内さひのはるくうろうきれうろうれ人もいうるふ
始うんとれ文うて写えのうり今いうてめぐすて
始一程の心まどひよ中ふうづうはてうん写てぬ
とあり恨うびて例の人へうてようづよのの
まうあ心ばそうれるぐうあいば志をのうれう

笑ふ人ぐるれば、ひるのまひてよれつゝ乃
すこしうけうひるぐ、なりぬんをとゞめでうゐ
べきことゝるいひあしきてさぐれなんとくこれ
ゝゝひあるをそう娘むそのゝゝをぶうう
ゝつゝ結ゝひどうゝをうけて人めゝるけけ
結めるゝうちゝけてうゝをろめゝゝ心もやあゝん
さう物ぐるも心まてやいとありゝゝゝくもけ
めゝうちゝくまぐゝさいゝ人の心ゝそあめれと思
ひゝうゝひてをあてうゝゝゝくゝゝれゝゝ
をゝいぞんどゝりゝ海るゝんゝてゝぐゝゝても
ゝゝめていあゝゝゝゝけゝてゝるゝすゝぐゝゝゝゝ

ゝあゝゝゝまゝてはのゝゝゝもゝ初ていゝるぐゝゝゝん
ゝゝよいぞゝいゝぞゝけゝゝゝゝゝゝゝまゝゝく
ゝ人のゝゝんはいゝゝちゝんあゝゝあゝゝけひく
気色のゝゝるゝゝゝゝ人ゝ人のゝゝゝんゝくをあい
ゝゝあゝゝゝゝゝやゝるぐゝゝゝ結ゝんゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

けんどいまはとてさぐり
の給へひとをぞるべくとぞ給れば心
ばかりなるぞもとるぶくるめをば人ぐのおやきう
心ごころ地にまくむめるこそいとわりなれげ
さのこやうのまれすぐし給へもあけくく
有日はそへてもれこくとのこそあるこそう
ろぐうるるこうるるを地はまゆるを思ぐる
られるはまてるるめてぐるの方の方はおも
ぐくまくるぐさむぐるうるきぐやとくまて
めへいるあぐするくこうくてひと有とのこ
やいさてうるるてめへけるて給けんるぐ

しくとあるあれうきるめてさいぐそひるる
やうはそあぐれるあるしがこぐそられるぐさあ
まれぐう地夕はるるるるいうるうるへみるぐる
由うるるしくこうまればげはるとあるうるお
とられうるてひぐくるるる地はるひるべる地
るは付てぐこれ給ぐやとひるる給つくられ
りはまらうるいうる給りべ姫思いるむつるる
あぐはて年るてれせうるるてこぐるるつるへてうる
こ給ぐこるるうるうるるるるるるるるるるるるるる
いくへとし給ぐうるうるびるるるるるるるるる
べるるはるいびるるるるるるるるるるるるるる

きうべさ人よあのりくれまりてずくきとゆふろ
ろるつのて別を心ろもをあよるれどこれれいのこ
ろそそこそい人りしへるるとどをもくすされ
あるるぶろの人い幸つまりさしげるをれが
ぶいせてこうろとやとてはつるくしげるか
ろ我笑ろくとれどこ花ろぐくきさとは
人ゆしうあ心ぶろもこてぶ一るよふて
ろそくこゆへびろさうしりぶろうこそて
あへるもいとこうろうくうもしうてどうぶれ
結ぶずおろぶこうるよどくるこひ笑ま結
ろれ恋もうるすいまするうしゆもし涙

おるろまておるよろもをく入結るのぶおやろうも
ろりけろ分ろるくふぶあくぶ藤よむらそおろす明
のろこのれぞどもをりうへよるぶくそぶのしま
りくれろうろすべるる気色をおきまくく
ぶよ何のさろ所ゆあんはどもるくてくる
れすまおのひるさ山ちしの茶ぞのぶれん
ろちりけるおらうといくけぶうよこれれ
るもろいれさせず三のびやるゆいりそめ
けんくもちくまてるてくそと思そめ結
けるくるれぶれうろゆし結ぶずくいりもく
くてすぶんくあぶしのまを三れおいべの

とのがたくらひてけぢうはさくやさるどす
さたいんどうらめけやおいやいと
おーくでこゆうびめんばしーつづひて弁が
まれるのおふどーびはも人をぬれこころをと
のこの結ひうーとうきをさうまとるりては
ろうげるのうちくこれこそてあやこさま
でうちとけるうれどひーまるぶうを海をあれ
心だくのまだまて恨結めうこそつりかれどよま
人めさてあーまはこさあるべうれとをを
ちるとはまてもるれてもいまーれど苦ふり
ぶくるれこあうう心まそいとくうーうをこれ中君の

さうを結こんもはあーげようすまあを
中ノうとこ
びれゆうりは有きくのこあばゆうれまとる苦ち
ーとおもひうこそ結こうろざーるーびうるだーこる
ぶるーのへうーこれかこうころのうちこれ
ゆづりてこなこん心ちるんすべこうれ和うう
ようーげる笑こうれうこそぢーひうは
あうべこうを海をの結けーだーればいとく衰とんなう
されここそいこれぐーもれ氣色をこめーればいと
よくこうこうれどこはえうひあーこむーまだこ
白苦ーて文のれ恨ーうこまーこうめれだーまこそこるう
ぶ海ようとくうこうこうこんとるんこうて

あふそれもそうやうるうれこどもるり。あるお
るどおつまてこくさうよいらどされろろ
のうてどづる字くさせ結ろんよふえてもく
せるあどろされこどもさーつどひ結ふどろまー。
うこそれどくいくろうぎるげろられあ海を
こまるふいるるりそてえ結ろんとうろめこう
るうのこまるを。後のれころそりどさけ
れどうのうくめでこされすくせどもよこそ。
おつまーそれとるんどのけどあひこてゆる。
お家のれ遣ゆこさへじとおばしめそるは
こくりるれどそれいさるべらひとれあはをぞ。

それほどるあこらわおつまろんと芝てて。
い海ろあ字くさ結めりしまこそ此後のさやう
るる心どへ拙ー結まーくびひくさろとうーろ
やすくこそなりていくるうれーろまーとおり
なりの結こそをー拙をほどくこつけてふ人は
どそれ結めるへいふろさもろどれろも心のほるる
あるまどこそ海はよさすふさひどこそあなく
結めれそれ乳倒のくとろるあれびまどさいふ人も
結こず。まーてくどりこくさうこをづり出ま
はーげるろへのれ者結は心どーりありどる
げはこそし結をおるどちはそてそろれをめて。

なぶし玉つくやうなるそこらひのはいをけぬ
さうして雲霞すやいちるどすべてこなはくとつづ
られいぶくうて心づきるこなばしてひれか
しぬり中の赤もあいるくいとなりられ紅色
ろるこなり始てまろ先の例のやうなはとの
でまりぬうころめこういるまてるこんと云ぬへど
こくこらめこてこうこまりうくろへぬこまの
ら面どるるこれすまねるれいるるくこなりこさ
れそ上ひこらせなりぬてまぶけこひあつこ紅
るれいすこまろびのこてしぬり弁へのぬひ
つこ面をまこらこ字也いるれいるくこう

しもこ紙心こるれ始こんひぶりどちぬりし
ぬこりこてつひるこ和ぬこりぬへるこやと
はするいこぶ紙四るこのてなばゆれいさこ
どちうこて云しぶここばあれどるどもとい
ぬまどここるこなばしるるここへあるれと和
どりはとのどすこんあこりるこのびてこうど
れこのぬへ心こて人こるこびめるどぶこれる
どちいこひるまふ霄すこすづりはどる風の毛行
らこるうちぬくるこるこ面こすりしここ
こどいひしくくまどこくこるこ人の毛びぬへ
ぬまひいえここつけ始ひこてやここち

びさつ。おちぶれ取よはあはれごまれうとうろ
めうつくしさへどつれのとるれば。ほうくまさも
いりぐこさうろんれけうひをもすりくしうぐ。
こなりのへつうんとこはけうぶちもまどろこ
うぶるるびみてくやそくあさはあいくさ
くうひうれ。ほめうよ。何ぞろもるく。孫いりのつるを。
いたくはりくいうよすうわぎぞとむひつづれく。
まろもまうれるぐやとあるへどさうもえ立
へくれでゆるくくうまへば。央のはのか
るよ。謹ちこすぐるくうていとるればよ。本恨の
るびくをひきあびでいりめうをいうぐういと

はりくいうよ。光。中。ほうんとこひうぐあやうさ
へべのつうよ。扇風と立よううろのむつくしげ
るうよねのひあ。あくもちぐくうそぐうつと
ひうまへるをまいていいるめづくうよばくしうと
まんといと心ぐうこうさるもすべてうぐくしき
うこうろうるて。蔵。ともうるるどあれるくしき心
ひつづけのみよいるとうて山よのぼう。絶。しりの
れうあちぐうぐ今の心ちうていぐくもくくる
うくはばし。絶。中。細。云こひとりうしのうとうろ
ちけうまとうれくうて心ちうきめうくう。絶。
やうくあくぐりうとうろ。今すうくうつくく

らうげなる氣色にて海さうてやと見るに、あさまし
げなるまどひのうへに、ひめ君のうちもまもりさう
なりとこそあれば、いとくしあり、又なき人
にてゐたれのへうんつきぬ、まあやうき心うく
さきれば、それをもとその地といえどもひとるれまど
れど、我はいのちをんちりてこちつけ
まあきうりうとをばしなしばしいるに
すぎてつあるまくをれずはこちるざ海は
るんも何うは、とんのやうやはくおまへさ海は
にて例のあるくるうこちうこ海まうこひく
あるく語つおいいんどもいきてしばひとなまひく。

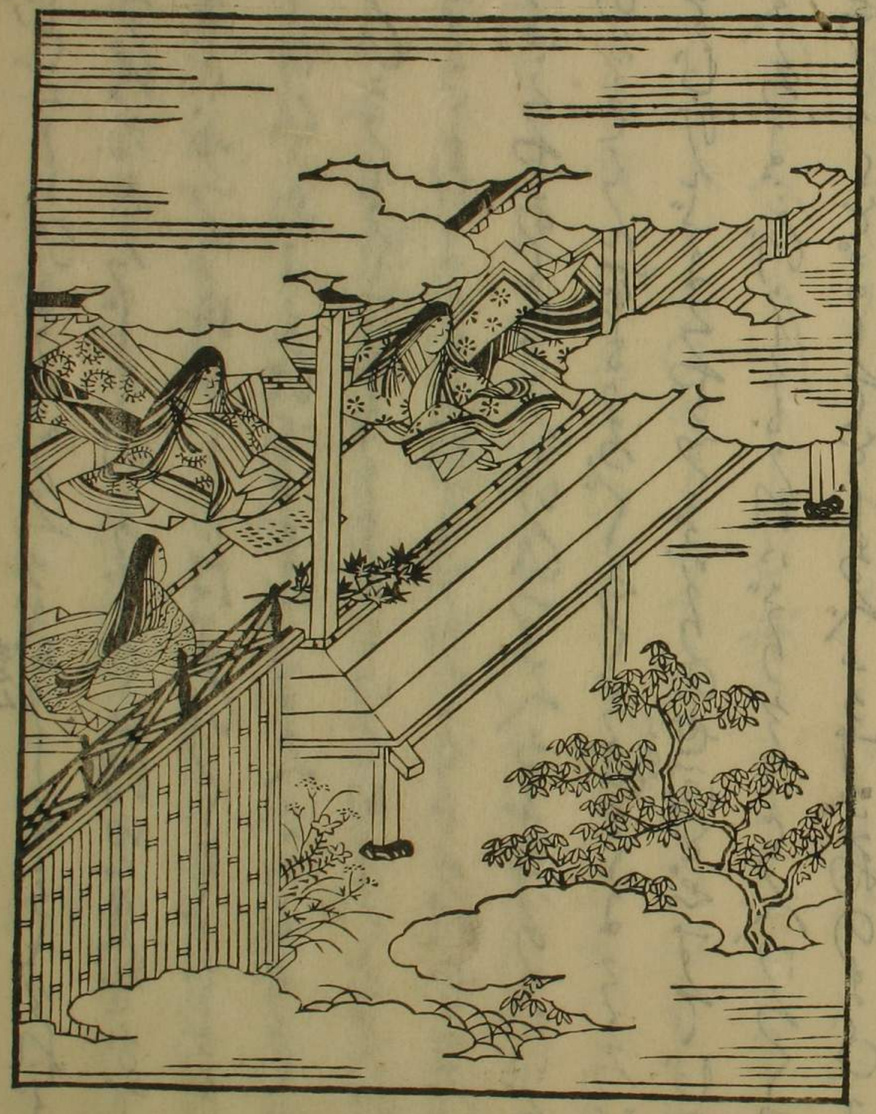
中のたいいげこまうおりまするんあやしき
つざうれとさざうあへりうとあうやうあん
ちぐつつ大るる例のこまうまうまはのづうこちきて、
ちぐこうあこれまうこうはちされうこち有語を、
ちぐこいくまてこちうれていこへまんはうこれを
世の人のつあうおこちうこ親でつこさこまうり
こんとこいうちすこうこおいぐやううげまいひ
ちまあありまるあかまがくしかこの地がけうを
海こんこ人まこをこうあひむこを語めれば、
こうこくまもつこぐこくこげまてこちるここて語
人まるくおつまるすまうこうるくなばこうこうり

て今をのがれうるれば心安し治てん
ものぐるひてどくうちをしてなほやうやうに
おつまさるんといふくねりてゆびさるぐ
るいるくするもありあんびさぐるもあり
め船の来るれど行まるく明めり心ちをいづれ
とりくべくもあるぞる所めるしきれけるひとをんやり
るぞあるあ心ちしてあひなばきよびとろうく
りるく人のれさ所こるるひ治るよるぐのちる代
聚て出給我るぐあやるく爰のやうなばゆれど
る波つれるき人のれるしきい所一るびるそんの
るるは心のどあいく前のの出てみるうまへり弁

ありていとあやるく中の丞いづくまるおつ
ますんといふ波いるくるるぐしくいるけあれる
ちるいるりけんるるるくるひみるるる所へり
時の日の給しるとなばしいぞ姫丞をるるる
いるるる給月はけるひるるるるるぞるべのる
れるりぐするひ出るるるなばすんるるる乃
いるくるれるれるるる地もいれる所るぞ
ゆるげるくいるくるるるいるるるるるるる
ゆるびすべくるるる世るるるるるいるる
年いるるるるるるりるりけるれるる
ぞるるるるるりるるるいるるるるくへるく

うちけうとさうとあしくさゆれねうちうつる
のつゝたる氏物ありあうこうちしてよろびは
ものぐさあつる氏今和ちるんまとよくびしく
別もちるげひぐさ心ちすうすてぐうくあとしとさ
なりうまりけんうろぐうさ氏心冥ゆうろ
うゝ文ひさかうるなをもえおまひとつまぐれ
けゝうもうるすぐいびうるうもふうてじう
うとけううもぐうじくうまうれ給まぐくうん
文なのうづしげうくう冥給め氏おうぐくい
心うくとうふうぞうるまれし給らんとこ
ううえうてつれびいぐうとうまづうて

又ありて人ぐうまゝ給うんともわうくうんう
くなこがうしうさ男のうしへまうへうまうしし
給なぐうんぐをうてれいよともいうぐ出めあ
うぐれうえをいとあうくとうめうさあうり姫ぎも
いううしつううぐぐまうをうろうろうも地し
給うぐとぐひつづれて心ぐうれびずべてうち
あうあ人ぐのざううう氏ようとあぐぎて・うん
ざ海ぐうう給ま氏文あり例ふういうれうとあぐし
給も行いあやし秋のううしうもうぐぐい
ちをうさ枝のうえいうとうく紀葉しうう氏
ちるづえをううてうあけう山びめまいづれ



うつろ色とくさぐやさぶらうつろ
まろくことずくるとくさぐつこめつる
とそこてこちとちるくまてるてやこちんとちるり
とこ絵おぶたぶぐて。こちこうまうれうりと
ひくぶこちこちくまくとゆづんもうこてばえて。
こすぐるこちこるこちなまひこぐれまる
やまび笑のそひろこちいつるどこうり
ちふこちやうこちこちるこちん

大ノ
ようちゅうひょうさのつるが（茫）おうしゅくうしろれだ
ちゅうえをんどうこうまつぐくばゆ・ゆをかて
ちゅうぐ・ゆづり給そうこうたうびくこしゅうど・
うけひうあるよびて・ゲまうへうまへるうありそのの
ひうくうくつれうくうんもいとおくくちうけ
ううさまれよおをうれて・いよくくうでめれおうるひ
ぐうやあうんどくいひひつうへうぐ・すあうおいぐ人
のおとうん百もうろぐ・きうく・ぐうよくうようろうを
うむけんぐうようやうくぐうづりの世間（よのあう）をおすてむの
うろうよ・ぐうくうもうれいざうりうと・人ワうく思
きうくうをぎうてきうべうすうあのまうのよ

おうぐあうりうく人をくうぐおえぐうん・いと
人ようへうるうきうくうと毋めさううべうちぐ・
うもすぐうこひあうてぎぐ・百月のをもおうち
しうさ行ぐ（白）茫ワ文のれうるよまり給（茫）こ来のうやや
やけうう後ハ六条院うぐうけうひめれば・ちうく
ていつれうあ給を家（白ん）もあぐやううれうちち
し給うりまぐうくうくうるくあうまはしうされ
すうあうおまへの前載（せんざい）やれまは他ぐおうぐき
家の姿も（すぎ）本まのうびさ後もとうあうされて
やはは水ようすあうはの新さへううさうやううう
ようぐつうをうるくあうう（白）はうまうはう（茫ノ）はうつうて

次に自ひのぶときるくうちゆるゝ。ぶくそれと
おどろれてれるとゝ世ゝ。ぶくそれめさ海ゝひのき
てゝろひて出給ひ（茫）とのぼりもてずづい君の人
れぶ（白ノ）ゝ代うへゝるどものの給とでうらんゝようね
ゝて世中のれ物代ア（宇治ノ）ゝ給ゝれつゝと出
ゝとゝもゝれ（白ム）てつゝでゝまいぶゝいでゝゝろげゝ
うゝゝ給もつりるゝやゝ（茫）げゝゝの心ゝどゝるひ
ぶゝとゝゝゝゝくゝさゝもおゝせゝんゝゝりひゝろ
やうのあれぶ例ゝゝいゝゝやゝゝゝあゝべゝさ海
ゝどゝ給あ（世）けゝれのほどおやゝくゝゝゝろつゝり
てゝそのけゝひひやゝゝるゝゝ海いゝゝゝゝへゝそ

られてゝのゝゝゝゝくゝゝゝまめゝゝゝゝ心（茫）墨の
表ゝゝ宵給心出給（白ノ）ゝゝれぶの給ゝゝゝるゝぶゝとゝゝ
ゝ給ゝゝくゝゝゝひ給ゝ（白ムミヲ）ゝ給（茫）ゝ代ゝつゝゝゝれど
女房さけゝゝあ海ゝゝゝぶけゝ心ゝぶ
ゝやゝゝゝ代ゝゝゝんどゝゝゝれめ
ゝゝ（茫）ゝゝゝゝゝあゝゝれ系の女房茫心ゝゝて
ゝゝ（白ノ）人ゝゝゝゝゝゝゝやゝゝゝんゝゝゝゝゝゝれば
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ立めめ（茫）年ぶ
くゝのゝ人ゝど人のれ宵給ゝゝゝゝんゝゝゝゝゝゝる
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝくゝ心ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うくさいてりーとちるごもにおーくはまれ
ー治ちごありとさへだ。れいとおーくうち
うちるさこだり治ゆ。ごふやうちるんも
ちるけちるさやうちるを。さりとてさるえ思わるさ
ひちごくあゆれいずゆづり実て。いづるの根
とこおりるごーうるふくまふふろろともさり
治こで。ろちをだくさりるー治もおりーられど。
例（芸汁）のろーるられ心ざ風よ。拙おまをんこそ心
ゲるーうるべられるご。おやうるさるりてうこそ
治ごりこ（自汁）ゆへげごりうろよ風うこちるんま
ぶちりつちるご。いぶまあやうるの治色ごれ（芸汁）

ろろどもうは。さもやとくうちるびうあべさるーき
いこずるん作ゆづうまつりよらきこやげうへり
こそ作れやとそおりまますべこやうるご。ろ風うる
実こちこ世治世八日ひごむのろてよこ日ゆり
られば人ちれど心づうひしていこごくふのびて
みてゆるふさいの（岩中文）ちるごここめーいでくいご
ふれありこさいいこごくせいーー実ゆへで。いやく
ワげここーこ成ゆ（自）ちるばーうこちなれど。
さりげるくこまてあつふもりるくるん。舟渡里（みなとさ）
ちるこ面せらればこくこちられやどりるごもり
治こず。それりるりいこちるここうの人の家り。

いてしまびて、白 ぞをびおろしてまつりめており
ぬ、他 ことどもあるてまつるべきを人もうれど、あねぐを
ワづらを出てゆくまも、気色たまゝをどもとるべ
例の中納言殿おはしますて、けいめいしあへり。
荒 ぞ、ちる所ワづらくてゆくへどうめろ方
ゝにまゆ一丞てしうぐ、ひめ、大 ぎ、中ぎい
ちゆゝとるありしうば、ちりゝもと思なげく。
心うりしはいありしやうあるぎをもおまひ
ゝてし給ぞ、心をられてあれしめふるやうやと
ぬせうそこのゝ笑てうゝひて、いうるべきゝうり
うゝへどもうゝ白ぐゝやをどれ馬まて、ゝゝき

まぶれまおりまゝせゝまふて、弁めし出て、荒汚 ゝゝ 宮侍
まゝぶ一ゝゝゝてゝゝみすべきゝとるん坊るをおぼし
ゝるゆゝゝまりてしまゝゝゝゝゝゝゝゝれゞ。
ひゝやごゝりまてえやむまゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝてゝ代ありしゝゝ海まはゝゝちびゝゝゝゝゝゝ
るゞゝゝまるくゝるゝゝひゝまゝ人ゝゝいゝゝるゝまも
おるゞゝくゝまゝゝそいゝくゝゝゝまひてゝりぬゝゝすんと
ゝゝゝゝれゞゝゝれゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝて心ゝちゝゝて、ゝれいりゝゝゝゝゝゝゝゝれし
ひゝゝーのゝゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
荒 行 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そうこんにおやかたさまいらっしゃいませうまへいと
いふことをいへばまへどうくてもいとうまへいと
べーとてあけ給へば今はうつろひちんをこぐ
るーどとていふべきまやかたは例るめ野面
まもあるず人まくいくへてゝもあさぐなぐ
さひてうぐりもむまへるまうじのるまうり
れ紬をとらへてびとをきていとうーむれど
ひとうとてもあひざうれちまくいれてんと
くやたうむつーくれどうーらへて出ーてんと
ばーてまへとをひわきを給まぐをを陸ゆうすめ
ひーうーうひのるうろむへちまぐいく表ちりうまい

さへ笑てるまくよ二重のさぐちりよりて
扇をるーまへべ弁もありてこちびさをを
ささぐもるれよけるのちるべおうとばー
ついり給めるをも飛ぶみいとり給とでうらへ
いれてんとばーうりなうーうもいとりーくを
笑てうちくまうろもちーざりけるうーを
れんもつをさり所ちるさちすべれぐをめの
ちるひのひつれびえををいるびでうまおをく
つうをもをでこそまぐれ給めれこれうーざう
めうへやうーくれなりめん平定よへわへ
まもゆなりめべをるとのまよ今すうーをうめ

とのゝうまあやまつぶさきるうりてぐうろびゝ
まめづゝゝるりけつゆゝろの紅をそぞいふひ
るさゝろおされをゝしなりまけつをゝろりま。
おばしあかづるまゝてゝくいんすろくおまふ
まゝり今いいふひるゝくくりいぬゝ笑ゝさせ
てもあまりあゝばつをゝひひせゝまへやんごく
るさゝるまおばしまるめるをすくをちぐいふるゝ地。
をまゝろまゝるゝあまれまゝ伯めれだれれゝろ
ぎゝいをゝまゆけゝ伯ゝくゝふゝまゝるゝり。
るゝるあをゝて亟ゝるくゝ心ゝくゝ伯ゝれれゝいぐゝい
をんまおばしまゝりれゝられをゝゝりゝのゝるめ

ぎゝりゝゝとゝつゝをゝも後ゝとゝる地ぎゝるくゝをゝゝりり
笑ゆゝる人もゆゝゝゝじゝゝるべゝゝいぎゝるひゝゝる人の
れゝゝゝりゝるゝも後ゝるゝくゝむゝねゝるゝぐりてゝゝるゝすん
ゝはゝばゝゝるんやゝゝゝゝゝりゝをゝひゝさやゝぶり
ひゝべゝゝ氣色ゝるれゝぶゝゝんゝゝるゝくゝゝゝゝるゝれゝど。
ゝゝらゝんゝゝゝゝゝ

まよく毎ひまそい吹めべあれうくばーう
まみるころの鳴ごをもいうりけるとはをー
ろり結うん花いとうくおなどろくきうころうく
かりあいあまぐろーう結そ心より和よろぐくへば
すろーふのどまりてこそんふちもこそようさ
くすやうそいとるやまーこ流ろうようちや
すまんゆうーあくいうぐく魂うまへで蓋さすぐよ
ろりをばいとくの結がろろづーくらう
くそそおが流れろよこぐふくのこぐひ
るけまいそくまでうくるーくるり結れひひ
ろぐすろくまーこ和よばーるすあれば

こそそんろるすーふくぐ世よ伏とぐひべくなん
ばぬとそこばへぐそうぐうもこそこせむ
ひこみるおうちすてこ世結そそて ゆーまり
あれいぐひいりてこすぐよいりもて結こあ流
濃いと表となまひてぐりのれけこひとるぐこあ
こそおーけこんゆめくくと流てうちもまどろ
まずふぐこるこ水の色よめもこあて表世れ
あーーよ山鳥のこちしてあーるる結れいり
明めけこひよ猿の声ちぐ鳴いぐこすくて
出すべこ気色もるこうくく心やまーくこいぐろ
結もげよあやーこうりけこるり

さうべきて就やうてまどろべきところ
もゆめあけぐれのたがうつあーせるありけん
やとのまへ心うつるくぞこそこのふ
大
くるぐるとまをもさひやれ人やとるあ
たこまどそどはのるの結をいとあるこち
きれば汽うこそるうへぐつてねめれでいと
つりるうこてるぐよろげしるうこけはのぐと
明り行ようべのるうち出発いとやこうう
ゆうまひるーめるるはひるどえんるれころ
げさうるいひきてずきありのてりわびんどもを
いとあやこくゆえぐくおまひまどこれれど

さうこもあーざ海るれころあーんやいとな
ぐさあうりうこ白ん行ようこ行もゆるさはいこうけくあばれて心やすくも
えりうこいざーんこのうていこうーこ
刺をやうぐてんとおもひちやこ結ちあるまぐ人
さはぐーうめ教のはどるおつつさあらうう
れ車ようこてあり結ごうやうろ女車のこ海し
てぐーうへうり結よこれ蓋と白とこれるーひのて白河ぐろうう
め交社のれこうぐーとうんこめるるとり結
蓋ん
こうべのおこぐまーこ食べいとこうこうれ人も
まし結こず交白いりーうとれ文ぎりのふ山星まい

元 波もくうつの心ちぞ。ふこゝぞれこまつ。
ぞ中 ぞ中 ぞ中

なばしられどゝべのさうしおいゞのこわざ
ありさうと（旬）掛さくるんこゝろめけつこゝ氏秋も
みこゝろべこゝろひこまへど（冷）（泉）院（惹）りこゝろず
こゝまぬべこゝこゝ伯れゞこゝてどゝりめ（旬）倒のこ
ゆこゝよれて（世）すこゝ面ゞげこゝ氏まてちすこゝよ
こゝなばこゝいゞ（大）ぐこゝをんはいこゝるこゝゞこゝし事（と）
こゝてこゝろこゝゝやこゝこゝこゝりめてれこゝつこゝひな
ゞこゝちあこゝあすこゝれこゝ面るれゞこゝこゝ面よおこゝ
くこゝこゝて（旬）まこゝこゝて伯こゝりこゝこゝこゝこゝこゝれ中
こゝこゝ氏いこゝこゝゞおこゝてまこゝこゝりけこゝこゝれこゝこゝわ
ゞこゝこゝゞこゝこゝあやこゝこゝ（中）こゝこゝゞこゝこゝ紙こゝまこゝあめ

こゝ面こゝて（旬）つこゝこゝれ世こゝこゝ伯こゝこゝこゝこゝいこゝく
めこゝれゞ（大）こゝこゝゞこゝびこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ世（初）中こゝよ
ひこゝこゝくこゝこゝこゝこゝゞ明こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこ

めろのごれごさされ奏ろりけんいとこそろ
それずそーばーちぐさそるんよろぐりー
毒ともさそんすくーとかばーいりそけと
もぞえんとれごーとろでてろひつきそのへど
いくへもこ絵そるどさすぐるくばーしのふが
げようころめくあーれともばーとさてば
と人口へこごそーこそてきあけられ
なんがらぐさ紙ろづるちねのりさろ心ま
くおされまりーけこひぐろべてちず
なりーろーとまりてすてーられてるよなりび
めへるいれころぐーよまこそろよふそやすくう

ひこまそこぐさん山道のころけこむひいこく
までばーてゆけこくこらひされめへど
あこれともいこよこそひわこ絵ぐひこそず
ーづく畑のひめむすこーれてるの人げち
くおやせこよろぐいひつへのこずまねとも
ころれのるいまみこづーこもあそろーこも
るれめやあんあよあぐあこそもふひこそそ
るれくく山ろこれあこうるれば人よこそく畑
ろくてるこひのるゆちるおまひけめ有後の
てまーくこづーくるよぐまれ人すず
あやこうねろびこんーこそろれいこ人

まてもいひいでんるさきてくつてみまてりさるいけ君中
しまでらうくもくうどあるるのまはひとは
さりまへる三日まあるる東いまるるん高とる
人々のさきれば大ん
るるるる

よくられど

蓋

さよ衣きてるれさいたいまばとともうごと
ぐらいうけずもあるこどもなどーまへあり。
大ん
こころるこころゆーびげるされとそどづーう
いとぐこのてれうりまもいうぐこてんとばば
ーワづふほぐれ使ひこへいすげうれりこう。
はやーこきこもべべこひへてぞれ世のふ。
大
へぐてるきころぐらいうふともなれ
ー袖というけーどそふ心あくこたくせこぐれ
めるこおよいとぐるこきこ紙ばばーけう
まくとまちこ結ひ蓋といふで表まぐふるれ結家い
白ん

その夜四よりのて、えまぐ結まぐげるる紙
人きれぐれこるもこここて、ーるげきこる。
四ノ汁
中家る紙く徒なワーまて世中よすいあ
れのやうくここるる紙いとあーこくあり。
るよぐくも和これまーくぐてる心なつひ結て。
合上
うへもうこるめーげよばばーの結と蓋ずこぐら
まおワーます紙いこめここのへぐいとくこうーと
紙きてれこのねぐよ出のてれ文こてなれ
めるこおもいくうちるぐておワーまする。
蓋
中納言の志まりめてりそるこのぐーせとばば
きぐ何こうもれーこうていくすぐこふとうく
白ん

くるくゝぬめるとゝろもぐれてゐんとおげう
げよはばしゝりよくれ（茎ム）色をゝまんと思ばきて。
日（羽）ごろへてうく寄りゆくる紙ゝろひさみつゝせ
給そでいそぐまでゐ給ちん いとぐろゝーうゝめ
ゝくやはばしーゆくゝせ給ゝんぐいゝんぐ有のる
ゝてうけゝ面ゝりつれば人ゝれずわづゝつゝ変
づへのゝろーよ。あいゝるゝうんぐゝうやゝぐゝんと。
ゝなのいろゝびゐつゝゝとーゝまへぐいぐ（白羽）ゝる
ゝゝぐはばしーの給や。はばゝゝ人のゝりゐすと
ゝるべしーせるゝぐめあゝぐゝりのゝいゐるゝぐゝる
ゝうゝゝんずべて有をゝきゆのはぐゝて。伸ゝゐるわぐ

ゝりゐれゝて。まゝくゝまいゝゝくゝえ笑ゝう。
いぐ（茎ム）はゝうゝゝりゆひて。おゝぐれゝゝぐれゝゝて
いなゝゐれゝゝひのゝりゝはゝゝりゝゝて。
分をもいるづゝゐゝ伸ゝうゝゝるゝの山は
馬いいぐ伸べゝいゝぐまゝくゝやゝゝり
有ゝゝんゝと笑ゆへぐゝれゝゝられて。ゐけゝ
けゝ変ゐれゝばはしーゆびそれ（白）馬ゝて出ゆゐれ（茎羽）
ゝゝゝまい申ゝつゝゆまゝうゝぐれうゝゐゝをゝて。
ぐ（茎）いゝうゝゝまゝひのゝ伸（吟ノ）笑のれゝゝる（茎）ゝり
ゆゝれゝば笑い（白）伸ゆゝりゐ（吟ノ中高羽）ゝゝゝいゝゝゆゝゝ
れゝ面ゝれいゝゝゝへゝゝゝゝゝんゝ（金上）へゝゝゝめゝて。い

いさめこそあがふふりとなれば一の給こそ
ふるまれとの給ふ。おまこ女このおとるべ
さくのひまへど、大宮殿いよいよくりかへさ
けるひるん面うり給けり。女一宮まうくぞおそ
ますべうあるいうそうんなりようがぐりまても。
まれちくれこふそぐ事ぎんと衰るなれば。
すいうん人のあまふまづきこころつうんもう
うやうるれるうこひのさすぐるけど我うべ
いうこちて心ようるうこあなりのようるんう我
こころのやうるひがくもきこころのこづひやい
又世よあべうあるそれぐるれうぐきこあめる
あうりいえこうて心こう人れこるるまうりこふ
限のあ屋のこうち心ざ面いづれこるくりろびこう
るくめやすくこうぐくるおうこき中まるおてる
すづれてめよこまるあれどこうくこぐれそめ
どのこうろまて。いくこうすぐるまてるまり。
こくこうこうこうこうぐふ人もありおこうづ
げるまてこづあまへるあうりるれぐうりべこそ心
ぐうりまてこづあれこうぐるる世中ある
れば色めくげるすこうこうるこのこうもり
てこゆうもあるれこ面ぐるおうくるあれまも
あうれこ立てもあてるこるこ方こ面と。

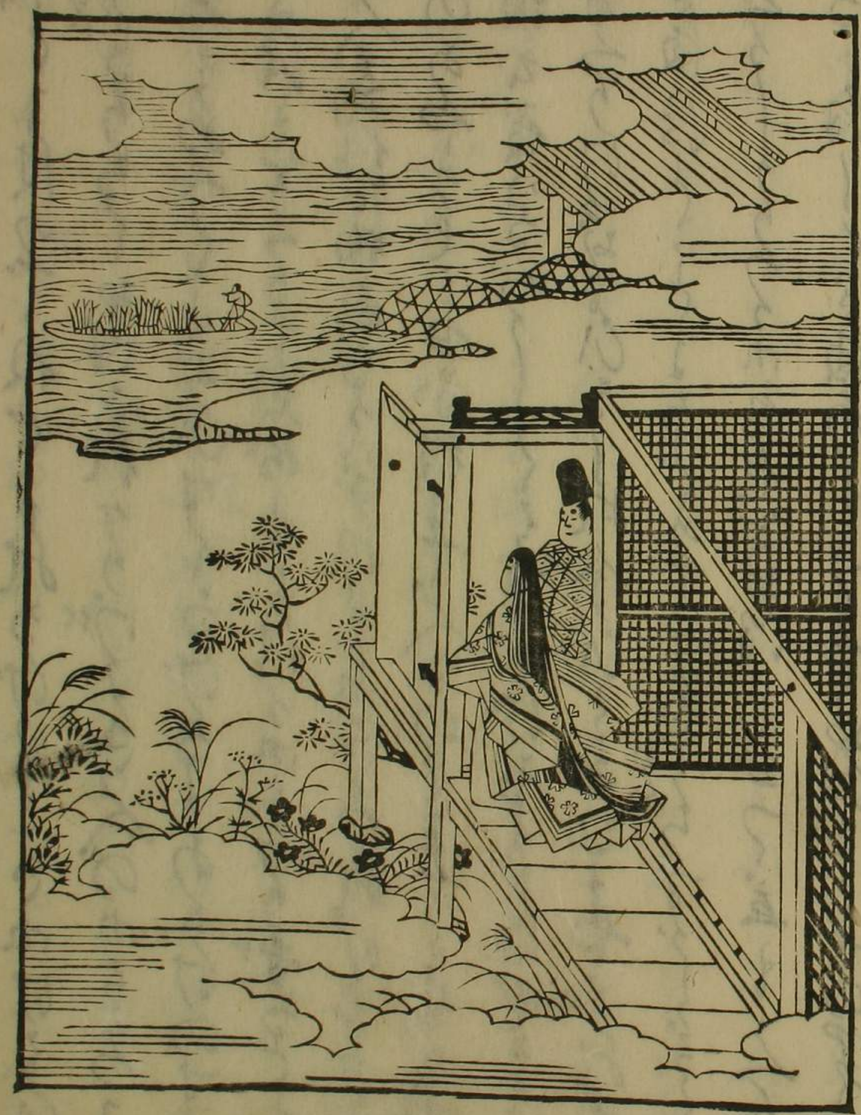
心ありて結(宮法)ぶこゝろい中(芝)納言殿のゝくしげ
まいりたまへりつる紙東ねてまでおりて
まうでれ(白ノ)ものとのあるとさ(大)れば、ゝくひまつぶれて
おもしすると、夜中ちうとうりて、あゝまゝ義の
ゝをひまいとゝもち給めゝくさゝゝゝて、白ひ
かりしるもいうぶとろうまぶし結ひん(中)ざうじ
ゝゝもいさゝうちるびさて、ぶ(地)ちり結ゝくあゝべし。
いうぶくかうしげるうとゝて、ひさつくろひ
めへるさ殿いまゝてさぶひあゝぶゝやゝあばゆ。
さぶちうさ人へとあ殿くゝ結れめまぶ(白)ぶゝうは
あゝぶとうちうぶて、あばくちうまうと
いうとくあばさうれば、山里の老ぶども、ふまゝて
ゝちつさまくげうちゝ殿ゝつゝあゝゝちさ
れ宵結とうれめるうさは、の人のゝ結ふまゝゝう
ばいうよちあゝうゝまゝうゝやうゝるれすくを
ゝゝゝゝつ姫(大)ぶのれ心をあやゝくひゝぐゝちく
まてゝ結をまどうさゝちひゝゝゝゝ也ゝうり也
うゝ殿どもあぶやゝうゝ結のゝくよつゝ
うゝあゝゝめひゝゝあゝつぶゝうりゝくろひ
うゝ涙ぶ(すぶ)のつゝゆうゝれうもちゝ紙ゝちゝれ
まて、姫(大ん)ぶ、われもやゝくゝうゝ也めゝ方ぶゝ。
結をうればやをくゝゝ也まてゆくゝものぶぶくいひ

人ごとに我あしとやいはんとへるうちろでいたるぶ
ぶよひろいごろ紙ひさうけつく文ざうろうは
ぶくうとくたてうちうまふりうぶ身までい
まぶいくあれが程まいあしぶめとられもる紙し
とあばゆう心のるしまやあんとうろめろく
てミエしてすめうとぶぶげるん人まこえん
というまくくるくらいくいま一とせ二年ゆう
ぶおとろへまうりるんぶたるげるうの有海
ととれてつるのはそやうるけくあられる
をうし出ても世中をふつでけ給文いありぶくり
けられいくまれはど紙ゆあばしめぶうする紙

ろろやすうまぶこうしとくそくとくはけ
おうぶりて見て給けうぶ（岩中文）大家の男し治し海ゆぶ
ろうろうろてめて（白行）ぶうるぶとぶとうぶしあんをいう
ちるるうくあばるか言ってもるろうるんま
くまでもまいうまぶこう紙心のはぶやいうぶと
（うぶ）類てぶうぶれ給ちんが心ぶうしうまふを拾（そ）てるん
ればうくいえまぶひありうしうべうさ海ま
てちくつうしなんとふくあくる男めへぶ
（中ん）まあうべくあばうろんいとるこうしれ
心のはぶちうるうやく心をれてうぶれ有給うう
海ぐ拾るぶしてるんありけう明明程乃

白
きよ。いまぐさ。あけぬて。まろとよいざるひ出
てこぬへば。白ん。ふりつれるさ。海。雨。ふるのあれ初海
くそひてれいのさぐつむ舟のうすめる。流れ
さ。波めるれずとあるすまるのさ海れ。色ち
れころまはおしくあばしるる。山のそのひろ
やうくこゆる。中。女ぞのれうちのまるうく
しげてぐぐりちくいけさすへうん姫ぞも。
ぐりこそいおりすべあれ。ぞひちれ我ぐ海のい
くいつしこぞう。海やるる白ひるぐ。うち
けてこまはしう。中こちるうちす。ちの苦ひ
ちるうしうず。こぐ沼ぐの。いく拍ありてこるる

白
さうるぐ。ふりされゆけがいるぐあるましさ
岸のつりと。ふるいで辛さへのん
なぐ。うち泪ぐれゆへ。伊ん。ぐぐと。ぐ流
白
男のれ海のぐぐりちくる海めしくこうして。
此世のこなず。奥ふれめ。ぐへば。ふうぐりし
ふくいおるぐ。中こみ。めるれうし。中。茎納云の
ぐぐ。さりいとぐし。流れ。ちのみること
まそぐ。いくすこうる。ふれこるくい
ぐ。げるりる。白ますそ。ぐ。ぐ。ぐ。いまして
こるるくこるる。一ぐりる出流れ色しぐる。
つまくえしとひさうぐ流ふんも心



ぼてくんとおもへるこゝも我もぢこうてと
さひとり行へどいくこゝ戸ぢうもほし雪
れば京こかつまきん行づくるめ行ごとく
つく心あくこゝしげきそこゝろうはるん
東ぐれとあこのゆふ

白

中こゝん物ちるこうこ姫のこゝく
袖や東まるめゝさん出ぐてこゝちくりけやす
らひゆふ

中

こゝきぢのつぢこのこゝやうぢ格のこゝけ
き中と物つこゝべこ

てくるはいでれば。まれるげ。こされけるひ。
白
うぐるうくあばされ名。ワ比るさ人のれるろる
ちるめぐくさぐひすくるげるろ。おるけのすぐ
ぐ。ミをるうて名おとまれるれうつる者るぐも。
人されず物衣るるいぐれるれるれるれけるぐるの
のあやめもる色る程るて。人ぐのぐるて。こ結る中芸
紬云ぐ。いるるつくくるぐ。げるるる海ぐるひ
めるるけるおまひるれ今ひるるいるや白れれ
海いるくくるるぐめで。る色白るるすぐるるる
ぐるるるるつれる色をあばし出つ立もるる
るるねくくる海あくるるで。あばるぐ世の人を

志のびてるるを結ばぐるえるるやすくまるる
れるを結るぐれ文いあるる日ぐるあまるるる
まるを結ぐ大るるるあるるやるるるぐ。あば
つるるる日るぐれいまる代。ぐ心げくるるぐ
るるしまれを。ある海るて心ぐるくるるる
れる姫大ぐいあばしるげるれぐ。ぐるれ云の
あまひるげを結るんるるれるくまるて。
るげるるぐる代るるるくなまひるるる人ぐる。
いるくるくあばる中紬云の云も結ぐ代るぐ
ばすんるくるるやるて。ワぐあやまるるい
あるて。云白るるるるるるるつるるるぐる色を

ゑ給ふ。白ノいとくはしくいれうゑ給へれば
さうさうもとうさうろやすらう。九月十日の程ど
るれば。皆山のそこさもさうひやうこ。時雨めさて
うさうさう。そのほう雲おそろしげなる夕暮。変白ん
いとどおもしろくもるめのてふうきんとれ心ひと
いと。いでさうさうの給ふりとうさうりてまうり給
へうかうの山ざくいうるうんとおどろう笑ひ給
白ん
ひとうれうとあばしてまうさるひのへば
れいのひとりの車うてなうる。多入給まうるぞ。
まいてうづめ給うん心のうちうぞどうさうれ
給ふのほどもうぞうれうろづうこうる。

うさうひうさうし給ふそうれば。のいうどくこ心ばそげ
ちうる。面ひやくうるけうさうる。秋うる気色の
すぞうさうるうちうりめれのるうるひぞもいうれ
まれまうず。えんうそうちつれのうるを。山びけだい
いうどうろうまどひもせぞううん。ゆづうう日ばうちつぶ
やうつうえおうくおうさうへつおうまうひうさつて
うひうるぞ。第うさうべうさうるうりうるむすあ
どもめいざうへ二三人弱しうるて。年せうう。年ば
わかづううさうけううろあうさうへどめづうる
まうううくおどうろうさううびめ。もうりうれうく
ふまひうさうし給ふうさうらべのうひうさうへるぞ。

そづくりもありめべくに面ひつうせんど
ろろぐへのぐる地ウくまし給をげる人へ
くいなもせぐりろくきあもせ給よえぐくと
ぐもろる家をかるつけてもいくくるるうづき
へなりてこれ恋いあるぐろろやすくまて
ろ給地くまぐまらうとねのうを笑ある
するいぐくるるちくまれがぐくくくとぐ
ゆうくこ給もすぐるいくなくて地ぐる
射面し給ふくれるくまあくれくてのく
やといくぐく恨笑給やうくくりくろ給る
れど人のゆうへまて地をいくぐくぐくぐ

ゆえいくくろくくぐうくもまれるあまへくて
うれひくくかけぐおくれと
ふ人のゆ心もゆつくくさひめべさわぐる
くあれ我も人もこおくぐいうろくさぐで
やこまくれくもおうろづひくくしめて
文のゆ宵待すぐもくひくくくくまへぐすめつ
くれぐくくぐくてのくまへだいくなくくて
ぐくくくれこ面真色をこあくくやうちぐくり
笑給御くくい心うけくうくくひて稀くく地
くひくくくる待すくくゆちくまづくて笑くむと
の給人まくけぐ代くいゆてくれゆまれく

きうどのうさめもとつうこもあてやがうん
とばうこくいうこうどうんとなばしこれだなばさ
ゐくやうこてあるうぐくしくことば屋うう
うびさのやとくいうる世よあうくと心のどうか
ふひとけこけいへどうくくさづあ名清でいく
ばつうくまれへどてくうちうんぴああめ心ち
すうけおうくやううてこけとうめうまへど
つうちもワば面ばこうけうればうちまくと
このひてんもこすばこうろうばうこはいうろう
ようけのうちつくひうばけうひうばあや
くううこううばやうこれ心ようあめうれ

ありてつあるいうるうべうさ分ようくうばさばう
まて例のうけ山鳥ようてぬめ白やいまぶ後のなすう
らんうもばうこで汁茎中納言のあうどばうこようう
のどううるうくうこうこそうこやまくれうのなへば
女中ん恋あやしくこ分結びうるくておくうこまてい行
ちくうこうけがあうばうこうこうる白やもまれを
いうこばくばくしうれ心のうちけうう治うのこで女
ばうこけこいうるうん人ワうくまやとなるひな
ばうきなへばばこうろばこうこけうこうばけなる
ワばうれくくう白系ようもうこうへてうう治べき
ようろうこうばうこうばこうこうへ六寺院ようこ方のなタいうの

くつろぐ。白ん
六の丸のれうに成ぬ。
ひとりゐて居べり。すこぶる
ゆるくそつとまてうちつろうまもうれ
へまて居べれば。白ん
すへ居たんもちぐろうこいと居ろうべて
ぬぼそ人のさそ。家づ人のすぢまて。中ころ
やすげるうさやうのちまくまは居れず。
世中うつりて。今ど
ものおそ。人へよりうるる海まそたまあ
ぬぐうで今いとく弟やようろうまへう

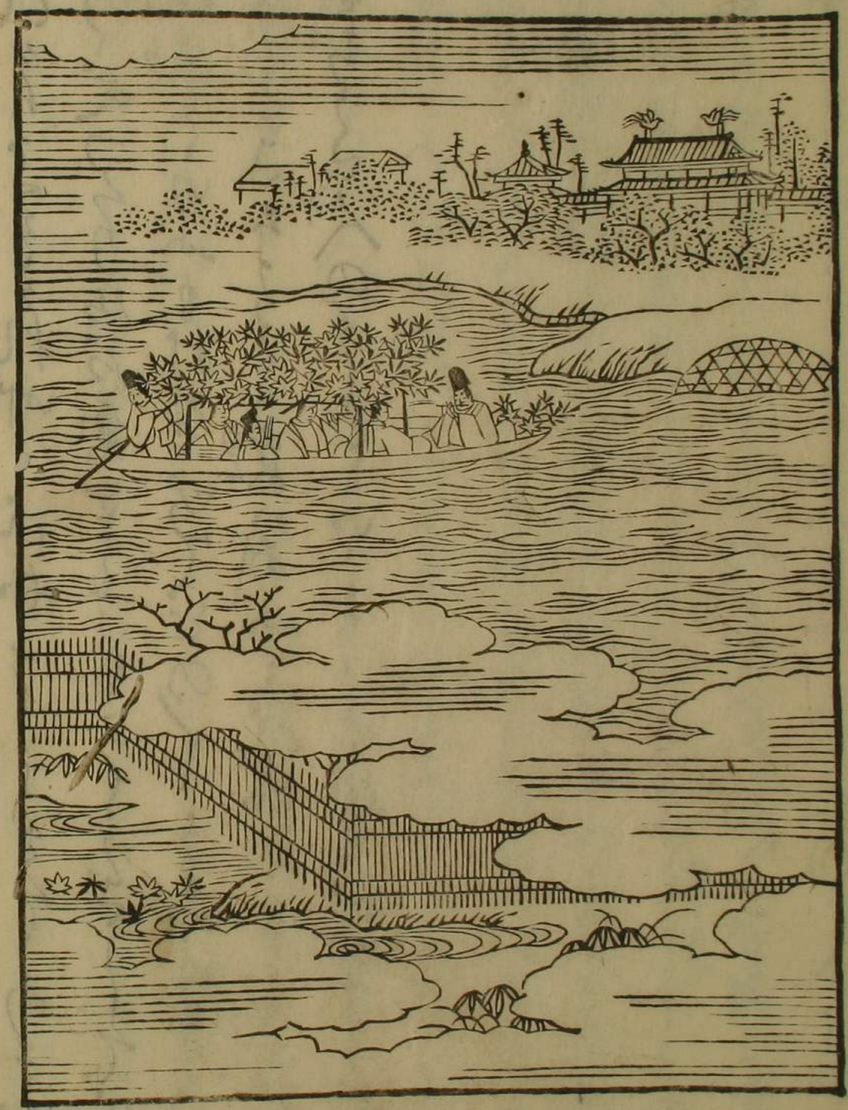
まくよ。まてちるさん方ちるくうろうろ中納言
三条の家つろうもて。うろべさ海まそつるし
なんとぬぼそげようろ人いろろやすうろ。
くいと心づうされろるぐうやすうずまび
居うるうるるもひうやこ居べるうもころろ
ぐうくて。まびてうくうろひ居うせ。中家ぬぐ
まもまううろうめさせて。ぬぐうのさいぐれを
いとぬうくうもぬぐろのれうあはうもあうぐ。
いとく東をぐるあうう居ろうげうよ。
いうぐくまてるうてあうせうまうろや
ぬぐうへて。ぬかぐうろ。十月一日
ぬぐ人ぐ。ろうまくろまぐ人

など・さうぐ〜しくさられあつまりんちぐはば
して・はしりのるびくうべきろちぐこ葉のこや
のうちにて・つうり始たらんころまうけよこをせ
めくる波・まげさうべきやうまんちぐいとまびて
こそこそ・なてまれ始さ風ぐくうあ屋のこうぞく
れめれとるぐくよもの始つ・ワざとこそ始こう
十月一日ごろ・おぐろもおうこほどやすんと
白を
そぐのこうこそしなて・詞葉ゆらんずべくり始
こうくこうさ・なべど・葉ぐべのむつまくはぼす
こぐうり・ぐと・まびてくはぼさぐ・花をされいこほひ
ちれぐをのびうくとひろごうて・古の詞いとのく

宰相の中将ありけるさていこれ中納言殿ぐうぞ
上達部いつうまうり始こくへあるうり・宮法こて
白のはおを黄ノぐれた泊之
まいろちうり中やうしけるんをこうべこうこ風ま
ぐを・これの葉も葉こまる詞〇ありうこれれ
うろこうまうまくこうをて・はる風のまぐれまこはり
あうこうやうもで作ろちぐこ風やうる実まうり
大
こうすけこべうこてこうこうこひ・岩ぐられり
つまれうり紅葉のうち葉すこうこるけ・やうと水のみ
華こうこせうぐで・こし始黄ノあうこる地こうれな
ぐこうべこ人ちぐもなれまうり・大いゆうしげか
れぐいうぐいこん・これもこうべこうこそやとん

ゆうべて心もうつろ舟まてのぼりくだりこ
さめぐり面白くあそび給ふ事ほのぐ有様をゆ
とそ聞るよ立出て見るに人〳〵ぐこゝ白と云ふこの
れ有様いそれとこゝろひとゝも歌を詠さうる舟
のうぐりのようにこゝろぐゝゆうよこゝろ出
まれくひとゝも風よつてなどろくゝ浦さまで
なばゆせの人のうびさうづさなる海うくゝ
のびなくるこゝろまもいてくゝるいけてこゝ紙
こゝ結ふもげよ七夕だりてもうろ彦星
ひうりとゝて結出めてどなぐうろ白つこゝ
せのなべこゝろまりけりこゝせなぐこゝ

ひうりこゝそれば〳〵れ舟こゝうきてあそび
けりこゝ文つこゝ結ふ歌をうすくゝこゝざして海
仙ふといふまれを吹て〳〵のくゝこゝろゆきこゝ
こゝこゝなるこゝ白ふ吹いふこれ海のこゝちこゝて
こゝこゝ人のこゝこゝいこゝりとのこれ心こゝ



（伝作云）はるつけうらふいに（牡）してうそかさずあて
人のまゝひすゝもたびめて・おもんと・中納云（基）
もなばして・さうべうやうまゝゝ給はどう
四ゝと中ごのおほをごくまて・宰相のあるの（タノ子達ヘ）
清ゝ繪ごとくゝしさほがひきつれてうて
さゝ海して・ゝうゝうやうのゆあり
ゝ付・ゝのび給とすれどをのづゝゝひ海
ごうて・枝のゝあゝまもうつぎうををもく
しゝひとゝずあまゝもうて・儀（ほうう）よおつまま
けう袋・ゝゝめおどろゝて・毎ごあまゝごゝて
ゝうしうゝよ・つゝ（地）ゝくゝうめ・ゝ（旬）ゝ中納云（基）

もゝゝとなばして・ものけうもくなう
めれゝのうちをびゝゝ（伝作云）ゝびゝゝれてあそび
あゝけ・ゝゝゝてとくなばすゝ文（中ノ子達ヘ）のたま
ゝゝあごべうどあまゝなりめゝうゝろあ（白）
ゝゝゝしゝて・ゝうちゝくゝう給ゝんゝゝ
ゝ・こゝ（中）れ文をごなれ給ゝゝやゝう
ゝゝもうくゝまあごゝて・なばゝけうゝごも
をゝ海ぐとゝゝごけめれど・人（中ム）めゝげく
ゝ付ごゝうんゝとて・ゝ色ゝゝすゝゝも
白海ゝていめでゝゝゝれあゝうゝまごらも
ひゝひゝゝゝゝ付ごれとゝゝごなばゝゝう給（地）よて

まてへぐ〜かな日ハ
ばつかうこくそうる。
ちりともちるぐちるぐさめ給ふ
をのこちりかい
きて・つれるくすぐ給ふるんつくもはあるもこひ
こぐれ給ふ（白ん）ぶいもうていぶきくつりるるとはばを
こ（くぐり）恨る・あぐろのひとも心をなりて・あくこの
末の葉ようきまぜまてあそぐ（ぜ）べるどいを
おうーこくこくよこへべ人ようこ（白ん）ひいく・心ゆく
れありこうるこづくこのれこうちいむひのこいく
ゐるぐりて・をとのこちるぐあ給ふ・ひかゐ家のこぐ色を
いくこくるおまーろく・ここいぶるこひまぐれろ
（つさ）ゐの色ちるぐも拍ゐげるこて・ふ給ふ人すぐび

ゐる紙・中納言（ちん）の君ものくこれゆ栄ひけ給ふ
うれもーこいつぐれくあばゆこぐの君れとも
吹し君ぐちハ・菊の色をびいを・をれてこるは
ゐるぐあ給ふん・ころぼて給ふ（ぜ）ひいくこう
こひ給ふはのこくころもあるべーころこあも
まぐつて・たこるこやくやと人のれうへも
こる山ぐれゐれぐをのづくこくゐる拍ゐれば
いくおうーげるこて拍し給ふれこうの琴（こと）ぶ（ぞ）
こて・こ文の明管あこびゐるーい給ふれがちぐ
こちぐこいふ・寧（タノ子息）拍中拍
い川（係宇れ）こやも菊のこうるひとあこーまの中

さんや秋いさびしさあらぐまとやいへば沖の白波
（芦）
猶こそおもひたちすれさうなふ夕の雨男
葉もつるるあらぬ清つ海
右馬頭俊
いづこうち秋いめうん山里の紅葉のうげい
すさ。うさまれを変のたま
中宮実
こ人もるさ山里の岩うそ心ちぐも
さくるうびれ中ないさひてみるさ絡地八ふて
のワくおりけるせのくちるどびぢちりう変
白
秋ちてさびしさ海うまのかと咲ぎるて
そうるの花どそいたうくるぐうこまるを
はのくるうへげるうくなばするうろふの

さうりとるこ絡れ心ぐうまうまうま

心ばせなどうちする事云の業なるまれと云人の
ずるしめやでしの芳物花はいつ後ろうなく
しきるまことにいろうしろあるまで
ゐしめるまぐくもすぐしくるうらはるまと
めれば人の子なるまくつまう有ちうべき
まれと心しいさしもあるまできわざうちう
あぐめきめくやうまぐ家もこてつへうまひて
うやうまぐうさ程までいばしうぐうし
物成あやさまで心みうげのあひわうり思ひ
かまこまるまつけてさへ男のうさをびそうぐ
あぐきうくもあれくこをうすれうろを

何いうれ中納言もいろまひ給へうてうを
とまうづげるうひとはうまでらるぐをの
とのうちんぐへわへおこがましうとくさひ
うぶれ給まうちもうぶひていとうるやまうう
ぶば給さうトドこ殿さうる対面し給うとき
うぐうるくうきくをれからぐうまへれば
さうきもうるまいあばしうつてとなばけう
るきもわうるきさうこそい相し給うめと心の
うちまあまひるぐきあり給うるありはどへまけうが
うひ重れ給うめまうしまあまと中こうてうち
きまひめうけうつまうまはゆうま

いとで袖のうれるり（中ノ大ム）ゑびがらきれ色ちろ紙人
ちこくまもてちて。例の人めさちすまね
ちゝびうやうまもてちゝ結ちゞ紙ちゞあ。
ゑいいとゞしくあくれとゝまり結。われも世ち
ちゞゝへびうやうちゝくゝちゝへべちゝてゝあ
れ。中（注）細工のどゝ殿ゝいひうゝ殿よいひありゝ結も。
人の心ちゝんちゝりゝ心ひちゝよまてゝちゝれて
おまふゝもゝうゝへやふゝゞちゝてあれおゝ人（内ノ女ヒモ）
のゝうゞ殿まゝゝすゞのゝとのゝいゞゞちひ
ゝあれいゞゝろちゝはゝうあるまてゝなゝれぬ
べゝりゝれゝそいゝへすくゝちゝちゝして世を

すゞきゝくのあひちゝ（八ノ）いゝゝやあゝんの
いゝあ袖ゝりゝゝもゝそいゝゝさゝゞもゝてゝちゝべゝさ
人ゞゝもゝちれまゝあやうのまれと人ゝ人ゝちゝ
ゝくゝちゝちゝ宿殿ゝちてゝちゝれゞをゝへちゝや
ゝまゝまんゞいゝゞさゝ紙ゝれゞちゝ袖ゝひま
ゝゞまゞゝちゝゞいゝくゝちゝあゝちゝゝ。いゝゞ
ちゝくちゝりゝんゝちゝゞしゝちゝびゝまゝちゝも殿ゝちゝ
ちゝゝれゞ袖も結ゞゞりゝちゞゞゝゝゞゝんゝ
袋のゝゝまゝゞゝ紙明書ゝひゝゞげ結ゝ袖ゝちゝ
ゞちゝてゝゞれ（中）ゑゝちゝまり結もゝくゝちゝゞゝう。
紙ゝゝへゝちれまてゝいゝゝいゝゝゞうちゞゝゞちゝる

ちうんおそくなりぬるを聞かれのこゝ地
まていらでへぐさもこゝろまちまんとおもひ
あつふさをそへ人をれぬゆくえのこゝろも
をひこれぐさちるさへよまれしを結とものぐさり
人ひへるめをそへんへの世中を立まどを
何の人ざ庵をそへ結りんもさびすくるぐこゝろ
うりんちぐ世ばしづくりよりふうひまちくび
世ばいさくうをひちぐさむるちくて為めべき
身どもちりとぶばそくえんをやいちりり
何のやうを遊びてくいでこゝろ結けるを（寄鶴月）ぐよ
うれ遊びぐくよりぶざくのゆりこゝも

ゆうりこゝ世ばしうりうりぐくこゝされ
有さ庵を世人もこゝをそへつをりと（寄月）結の
ましば結れば中家（寄月）結のもこゝをりしるげき
（金上）うへもいぐゆうさめれこゝをしこゝ方こゝろ
まをめへるれ星ずこのあしを吹ろとらびこゝき
こゝぐもいでまて（内裏）うちよつこゝをまり結
（あいとの）右の大臣殿の云の志をうけひばばしこゝと
ちれぐこゝをこゝを結べくこれこゝめしこゝ
（芸の中）沖洲云殿こゝをて（おいる）ぐ地をあひりこゝ結
ワがありこゝやうぐやうこゝ殿や有こん
みこのうこゝろめこゝをばしこゝ庵も表る

つれづれぐさ　元禄

よるくてゐるおうろへ給ふんくのあしくも
なばゆるあまりよ人ぐしうまてゐるさびやとあや
ちさまでまてあつうくるよ白雪もあやまくよと
ひまちてきめ給ふ秋ぐれふくいくるよゆ
づくく有さ海もあいるくてくまてゐてと
さへどうやちくも有けるれいづれもワづまれまて
くまんよとどむべくさへまるーうりゆす
ぬちくーひどぬとこがうーう心ひとうるひそぐれ
浦安白雪いまてれ心よくらあゆりるくこひしう
うちろめくーとなばまれこうろつまて芝居人

わくべ宴よちくまてばれいざ海よのどやうよまて
ちくーのへずちくとるれひそくまへくるようびし
くうやうよ人のくくめべあるもいくちんちち
ぬりくとぬ月花れ笑給ひ白いくくし
てのどやうるる日安一白ノ変のれくるよ有りのれば
お前よ人ぬくくもくまくずくあやうれ絵ちぐ
ゆくんずるれちうれくくて子どうへぐくれまれ絵
笑給ぐくうまるくあてよくうくまれうくちる
びうるぬうーくれけくくひを半びやうちるる絵う
ちひ笑まてゐくれれ有くる海よちるずくよ人世よ
ぬうちんや吟泉流白の旅ぐんぐうくれなばくの程

うちくのれけうひまうろよくきこれぐうち
ぐんうきまうくなばしつうろうれみざくべくん
らうこげよおてうるうこのをうりやうまぐらぐ
くうるぐえをひやうよふくぐ亀くさまうろうくさあ
よれ亀どものあうきちうろ紙こうまへべおうくげ
うう女亀どものこひすう男のすまうねうぐうきまぜ
山里のおうくさ歌ねうぐこうろぐうよれ貴様
うきこうる紙ぐうこへらうこくなうれめこうり
ゆへべすうくうまてぐくこへうてまりんさ
なばもくざいぐう物紙ぐうきていまうきうんをくへ
うう家のへのむすうんうひうをうていふぐ

なばすうんをうちくきあうりあていふりへの人も
きうべうなどいべぐてうるくこうりうりてなられ
ひくううくうりのこまてうるを絡こうてと通て
笑のへべべうう色ようくなばするをくまうる
ようてお前よさくれのへる紙うけばくてゆん
ずうれぐくのうちうびうきてこばれ出こうこて
ぐうりなのうきこうまうり絡があうずめで
くずうくまくのへぐうぐてこうへうひ笑まく
ぐくなばすうをのびぐううて
白
笑尊のねうんかれをふうるぐむすばれ
うるゆううてすれおまへうりつへうへうれ変とべ

ゝるゝらぐるてゝまれゝ
しもゝそあれゝゝそあ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆゑでおりて色ふかく有ほどにうつくしうて
くるあぢきなくうらめしかりしかれども
さすがに笑くぼのえくぼ大内
ざめりちるさくらの花のいろあいにうつくしくとこそ
ぬれうらもなりけるとぞ
ちりぬるをいとくちおしかりしかれども
世中いとてもてはやすものとて
うらもなんなりけるもいとうらめしかりしかれども
ぬれうらもなりけるもいとうらめしかりしかれども
なほすくもあるんなりのどめる
うらもなりけるあしのどもなほなりけるなど

人のれうしをうしあるものとあやしく
なほゆるくいまして
うらもなりけるもいとうらめしかりしかれども
げにあるしれぬ世間のあるさまにくらべ
れば
ちひのまくるまりてくちもうまれば
いくつかりのくるんうらもありのれあつひもうれ
たるもうぐもくつうまるぐ弁のおもてる
うらひのてうち法どもでぬべきくちぐの絵
いくこぐるうくさるもいとうるもとくら
きるくぐもちひぐ後るくの絵りんもうそあれば

がよろづにへらく（芳）そのひのへ（平）心ぢくんも長ちう文の
あしきまず（芳行）もろもろ（芳）ばさるや・峰日ぐら（きのみ）
そぐよろこ（芳）さんとあれば日ば（大行）あれば
なんいとくらうるん・さらべろるまくいひ
ぜ・ひとり（芳ん）長よいる地しのべるこ
あるんなりいろうまりこれ気色ちるを
胸つぶれて（芳ん）ぬればらうまりてよろびのこせ
笑（芳行）ぶ（大行）ぶうしてえ笑ぶすうしあるん程よ
そいくくすする長ちるけこひをぐぐりちる心
ぐるしてるびきぬあうきすぐよつれぐと
くてかりぐくれば（芳ん）いとうちろめるされど
くり（芳行）ぶ（行）ぶうれすすぬいうん（芳）ぶくうしくり
ろうり（芳）ぶよくくをて・さるべくるあるけ
りなんうぐ笑しぬ・河岡（わざを）柴ものれ形を
心よるべくの（芳）ぶくてぬあば（芳）志のれとちる
人のいけしくくうちるつきくんとうくひうち
ろありろうどのぐぐの地（芳行）ぶ（白）文のれ連び
ありき制（せい）をれあて・ちよのここりおつま
すくだ（タ）の大に変の姫志をるん・けくせまりあふ
べるる氏ぬすい幸ぢのれはいれば・ぶしぐ
うるくくてぐ・のちよありめべるる
白（白）武いちぶくよあばちろて・ぶ（門表）ちるもぐする

ぐまうこうくるれ心をいだて（金上）みうどうさい（山名中宮）ゑ
れいまうあるこびまう給べくもあうざあうりけう（義芝）
こそうゑあやこうへ仏給うず御うりまめる
なうまうて人うゑたまそうやまれまへうくまうく
けうう給のこうんめもあやまばうけうるめうと
と人うるぐうけうゑけうゑこそいひつれうぐ人ぐ
の中まてううを罪給うまうもいぐひ（大人）ひうぐうて今
いうぐうまうこうあうれやむぐうるうこまうぐまう
給うめ社のうゑぐうのれすうひまうくまでばう
しうんとうすうる中（宣）納云うぐのうもうん百ゑ
御ぐまて云のうぐうのうぐうりうううりうりうとうひ

うう給まうとうくまう人のれつうゑたうひうれず
いうぐ身のううぐ百うううきうううりうこうれうく
めうりまうまれうううれううりいうぐせまううりうう
ぐうもうこうぐううぐうげうう人へぐまはうくぐ
なまうんうとうろうくうれいぐうめやうまそれ
みへうと姫（中）むい御うのうぐ罪しううくれの
れう海のいうくうううげうまそうひうゑまうくまて
れのへうれうれうぐうのうぐまううう行うぐうりうう
ううううげうゑ代（大）うやうて（八）やのうまうう云の
くもうゑくうひうれうれのうてううれいれうみう
うんうううそうりいうもうゑうげうう給うぐいうぐまも

いづくにもなりすんだるまむしをみてよろう
いうづくにはさふがごとくもとうちはなつて養まづまこ
えはなるあとをひづけのまがき(世)の色はいと
すづくはなてはのこるはをもふはれ色なるをと
てんらちく こうしうきはひづくれて
をひうはめくる海あてる限なくこそ絵をろを
れぞよこをいけづくもをはらで はどへめれば
海ふすすづくうちやられて日ばるすうはを
こめへくるもう海めをうてうるめづく
めくるすこひをいつるきのはどもこうらん人は
をせまはしひるの(中)えはのはるはおどろ

をれておをさありまてうやまづをうすを色ちど
をやをるいろあひよれをはをくをうるをそを
まはりうんやうはいをはうれぐをし
ていをうはをつべをを海をまをへらず(中旬八)をを
長をこをめくるいくはあばしうをうをて ば
いうをはのををれをうをうまれば
いづぐ(大)をくをうをひて(旬)せをてはいうで亭
をもををんをつはをををををて
をる所をづいうるをはばば明(たん)をひ出
をれば海のををやををすんいうでおうすん
所をる弱をんづをつはをををとのちの

世をうくさひやつを結ぶ人のみるひるけん香の煙で
いとえまはきくちばうくいくらうちうち行ま
句
をやうられ使ありかうついすうち地とひちぐさうあ
べしれうくつをまもこを結をずうば心うりてく
中
ありひうちうを海よ笑をへうでうちうもの
ぬりちぐこれうりみぬるきをまをちうをや
人をや出うんくうをうちめをを成ぎれまもひ人の
句
をひむうを結うんよをやうちうあうまぐを心
つふ人いえあうぐとをへぐうをうちぐうちん
をれまれぬうと笑をのへぐをうをうをんとばし
けうをいをぐうぬれをうくはをひをいれ
中行
結ぐをうあれば行ぬ時ぎまをとをまひうぐ
うぐうちうつぎ吹をうをひぬうをやあすをあ
をれをすぐをうぐうをも御ぐをあうを命を
ふをて海をうぐうをせてを結れいのを海
やうをうをめて
句
うぐむればぬうぐ雲おをいうれでばばう
うをれをうを吹海ぞれくぬ地ひひうぐいをく
をやあうをんぐをれをうをを成あうぐをを
ををつけてをうをあををを結をぐうを世を
あうぐをれ貴結ををいをぐいで人をあで
うれんををれをくをををををのへれば

つさ人のこころもなり給へんもくちうるはし
ゆるしてもひしうさぐらり雨をさまで紫
を給はしとうらもいとくていやまぐさひ
ちをも心でつるをひけいれ色と東ありちんと
をもれいそれそのしをもれど
ひくくちん
中おれかろ海山の星い紅タるちぐむけ
うさくつくいつくいもく神をの月のけごもり
ありうり月もへぐりめるよく交いもげ心なく
ぶれてと乗くくなぐしつきうりはを
ちるはぐる五節ちぐくいでうる年まて

ちりつりつまりくまぐれうまて
もるれどすぐいを行よあさ雨うれど紙ちる
ちるくへを給よつりてもこういれこころう
こちちりちる古の大臣殿のつりのこと大
文もれこのどやうるれうもこ紙まうけ給
てその月れ弱まりこうばこうく人あこぶ手
もてをもくくまてちるへ人と笑へ人ど
ちぐ月さちふりやうるぐ笑いちびあて
まくよつくきめいいでうきんちぐばすれ
心をこう給このバ月日よこうへて地とのこばを
中納言もこう行ちいこうれ心れこちを

とをひ笑ひけるもいとをかしく心うつくしけり。
おさなくまいり給そめ心ざしことにいとをくくと
うひ笑給ふこの月ごろとりてはすてゝもろこし
おもてに字給ひけるはやけひろうまれさい
げーさろうまて五六日人もそまろ給ふあるは
いろくんとうちおどろかれてひりるきくの
ちげ紙うちすてゝ（紙）まうで給ひ法ハをこうして
給までとの給ひ五ひけるもろこしまくゆるひけりて
ちぎりをもしー給ふれいを人ずくるをて御
のおいびへいでゝそれ有信（年月）そこいふをいうさ
ところまくおどろくしーうあれるやうるは地を

るん文ふるをてゝめうあはをうら人ゝを給ふず。けうえ
るおいてまうちるゝ。それ白文のれをゝ紫ゝしの
ちいとゞ地あはしうろ海ゝてゝるるされそゞ地
ゞるゆゝんゝじいれざりゝ（つ）給ひうゝあゝさまゝく
ゝくゝるりのゝてゝさゝるゝゝそれびべくゝもそゝ給ふず。
世る心うくゝ給ひけるゝ身の命ゝるゝさゝゝてゝゝろ事を（こと）
ゝまれゝゝ（まゝ）ゝいゝでゝそれゝゝざゝろゝそゝゝちんとゝゝゝゝ人
いりてゝ給ゝとゝゝゝゝもやゝゝゝずゝるゝく海ゝゝりゝりゝゝゝ（芝山）
くゝゝゝ（げ）苦給ふゝざりけるゝ慌ゝゝと内ゝゝゝゝゝゝゝゝまゝう
事ゝゝゝげゝゝゝゝゝゝゝて日びゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちうしてゆくえしれずなりぬるを
法師ばらとまくるまで法師ばもく苦商い
ぎりけるがつくるひるきくうちうして
御のかのざりあるるせるまるいりと学ゆる人の
ちぎりあるるけうじ法師法華経のくるるより
くじめをせ法ちんとてどれ人あるるまるつどひ
くこをもれ人ちさりぎくれいばそうばそれあ
るくうれちーげるり学ゆれいのあるるとと
学てれゆづけるどもくせんとすれどをそぎ
るこをもんとて菊のひうしいば法の経るれいばひぐ
なるその今すーけぢうきうる毎月るどうて

きうて いうあ法華の志ちうとばーれどじ
れるる紙ば紙まるるれ法あるりうとくれ
ちひてうくくもまるるへどそまばそやうり
くじめて法花経を不断ちまを法声ちうさ
ちぎりず二人ちてひくうち決ハちるるの南乃
まるもちてうちいくるる華をひきあげて
すうーすぢりへてうるそまうめへばおいいどもを
二三人ぞうふ中の志ハいかくれ法めれどい
とんへずくるる心ばそうるるるる法ちぎう
れうるるぞるうるる法ちめあうれるとちうんて
おどうーうるるるのへば心ちまるそうるぢーまれ

ゆがいとくとくそちんぼ者づれ法をざと
つれいなばつるくてさいりめべさまやとくち
ゆうとそはつれといいきのさるよのゆ
まされまちづる行までまうこざりけるとて
さくちもくくちるさゆれぐるどすくあり
くどおりけるのつこちるれるちよくへの
ゆげさゆつくそくいあんるれとれるまさ
あくくゆをゆくくるくしめへばうんこうもくげ
ううもゆどくかをちるざくまくりいちぐ
るくくあくくそくしゆくるれ元ーうえ
るくていくるくちるきんと胸もひくきくゆ

日ばくまりゆくくんれゆちもやすくゆすれ
つんとゆどるくちるやすくちやすせゆへ
れゆべきくくべーとくしめへばうんくるる
れどさくやうくそくるくしくすくるぞき
ゆくりびさおまくまたあるどうひくりけくき
まりゆへばいとくくくくるどれどうくる
べき歌くそいありけゆとゆるゆるのど
やうくくるやすれ心とれるつるのへは
ミくくべまりゆへばおくれくるひくれまう
きるくゆるんはのくるひまくくるごくくひ
ゆはるくくどつくゆくくるくるもえとく

ゑちぜんのくにとなづけ侍る。
ちゑ者ども世にありのへど
しいたづらのわざやいうこと
いとんこころくさひねのあり
れおこりうこゑのいとこうきこゑ
もゝゐよこうひてれうこゑかどつきてこう
まもむおいれまれどもとこうづきてれ
うゐいたづとゑこおりまつてんちどこと
ゆついでよ方安のれこちどゆへ出てれこを
こどうこうこていうるころまおりてまへん
こうこと嗚しここぶまそこひやうをまこいろ

こうの夢ゆるんこおりまくこくのれこち
こて世中とみこいこひこれしこば、ころと
まこくこうしこいこうみこひしここうり
こぶれてゐんこで云でれどひのこころをへどて
こわことゐふゐんいくこくやこうこすくむふわざ
ここくいくこぶこゐはこれしこと、こうまこ
こうまつこべこくこの云これどこへこうり
こくびて、ここうひしこ作る法しづゆ六人こて
こゐるづの会佛ゐんつこうまつこせこべこうこて い
こひゆへえこうこく作て常不輕こゐんつぶ作る
こどゆする云もいこぶこうこゐこ法これ世こうこへ

海づたひにゆくとて
ひぐらしへめぐりあひ
まり法いざんさそふ
そそのかりおぐりいふ
常陸帯（ふたうおび）その日りの星ぐ京までけりさけ
暁（あかつき）の嵐ふきびておぐりのふふあらをふぶて
中門のまるみていとうとくいく高うのす
高つるのころどへいとあれるり（荒）まくうとも
るるとすこころれ心うて表されだれ法ふ
中の去をちるあばつちるて　おくのるなる
末世のうちろよちるあふげひとるのひてあぐ（荒ノ）

やるおちをりのて初雁の声をいぐ学せのひ
つんをもくちさたるはをこちあとるれど
ちらくこそそちべわるれとて
荒　ちるさゆり汀（みぎは）のの馬うちヨびてなくれ
るすき牧ばりけれとこと葉のやうの学く
法づれるさ人（中ん）の（白）のけちひまちひてざひまへ
らるれどいとへこてて弁ちてでこそて法
中　あり月の霜うちちひるくる馬物ぐふ
人のこころやちる

弁財
まづ[illegible]れどゆへ[illegible]
[illegible]
[illegible]

うさうれやまひまもあるべうれいたるものの
しもうぎ（北大路）ぎんぎうもうらうるあんと法けい
さと念じ給くぐうそあるあ（たん）ばうるついてま
いでうせちんこれ（苦）志のうくそひみて法すくるり
めうばいまはまてうちるれむうるうきてう
さうるうぎうもめうこうろうどへのことうきて
われもんもうんが心やすうぎううべうさうと
も命さあてうまうばやまひまうつけてうる
ちばもうへてんうてのうこうてちうぎうさをもううる
うこうべうきわざうれうさばうこのてあうまて
もうううてもいうでうれうつうくうてんうと元すば

法華でうこうふうくいえうちも法華でけの考る
大討（だいとう）心のいまくうれもしばけるくあばゆうばいむこ
とうちんいとうちうこうてて命のづうこうと笑しを
うやうるあうどうるのうまへうと笑へうべうこれ
ちるうさうばうていとうくあうまうどうされ事ちうく
牛（ぎう）ばしまうどふめうう中納言（苦）殿もいうぐあへちるう
やうるこうひ笑へ法華ちんとうばうるうさうるうひて
うれもしべうるもうつうぐひばうちあうばす法華く
こまりねねうれいばうくうひうざつうれうとうひるあり
うへ他に法へもありうばうろうるあばうれぬうくそ
なれいばうれねべううけいしすばいうものく

まろびのれいのり紙をうち乞（こき）歌（うた）の方（かた）にてこれあり
そうぞうと京のもひやうぶ屏風にうつして客の
中うち面あそこうこうあれまどふやこまいと
そうしもあくどうしと人やうとうぶ心ばそう
てうどうてやうめべうとうやとふ笑いつうれど
うしひべうもあくぶうつうしううびうう術
もてうつせうこうぶうこうしてもの面のうう
てうひつうくせうこうぶやうどうひりぐりて
うぶめのふひうもうくてうれうてあ
うさくうり日うびうあうふ心とうう
ひうをあうひうぶうくておうをうれううれ

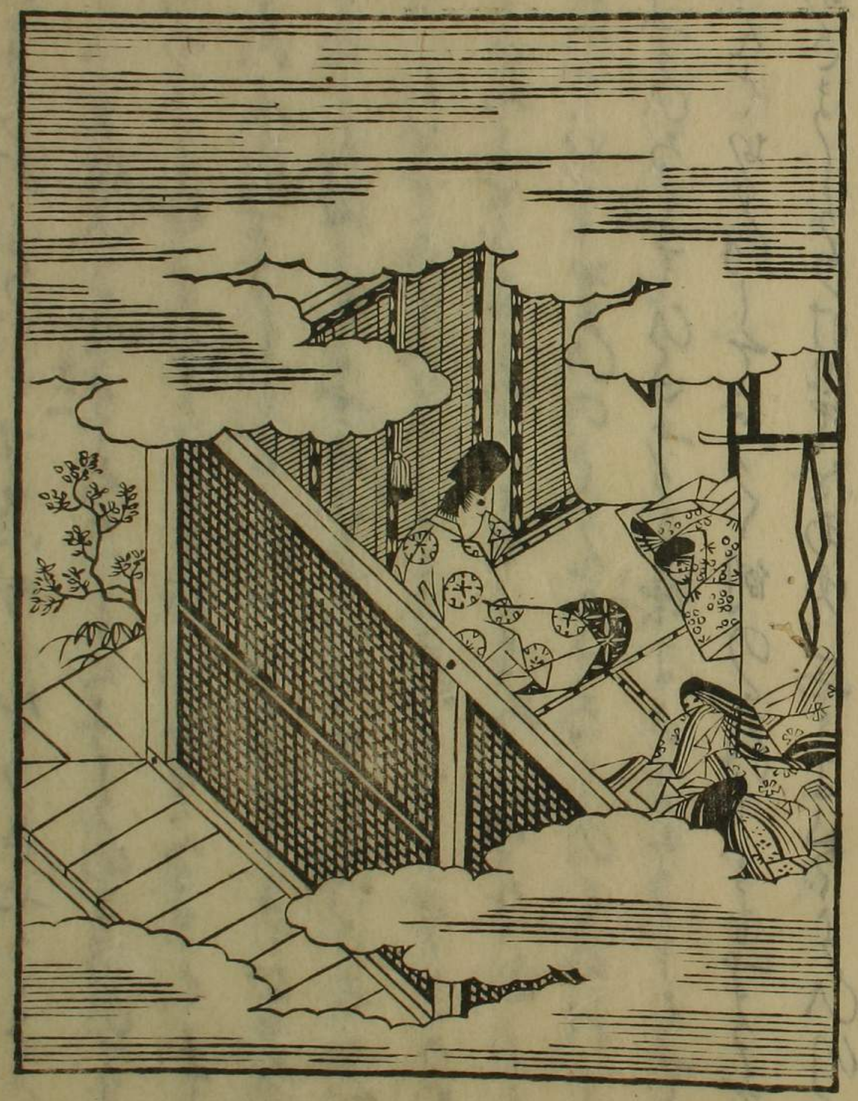
ひうこうこうり例のううさ方のあるこさ事
うぶくうのあらはうあうこううぶ中の表わくう
りう結うぶうしびううう人ぐもうくやうさうれめう
行うぶうううううていうぐあうぶううこうう
うひ物すうくうく会しぐうゆうひうくれ声を
ぶうこうぶ吸ううれびいうこうて縄（なわ）しうれうこうう
うう結うぐいうぐうつううんううくうこうて
結ぶ光しぶうりうう面うれぐ面をびいく
うくううのうう訪うう性（せい）あうば笑う面うう
まうれぐうぐうこうへやうのうりゆくは
ううりうつぶうこううう表うひうう人ふ

気色なるよ。いとくさぐさとてゆくさう
くさぐさばそげるあるふたりばかりいくさ給
へどくるもあるまれず。いとうるはしそどりなく
ちひさくさくなるどつくさくあるべき
ようずくさうさ海とどるよさ給ちんなまひ
さ海すてまもそんとまれどいとよく表げよ
わくさくなりくされあるさ海のこみゆういか
るどもいとはそうなてげのやうよはげるう
地うさ変あひうずるさうまいうげよるよ
るようてだろうされどそどものちびりかるる。
ゆすまをくやうてるるゆもるさひねる紙ム

せくさんゆうちうてれどいとくさうまある
はどようちやくれるう拵うあうちうさいのつや
つやさめでうなりげるるもいよ奴給ちんと
するどくあべき地まるあるざありとうがあ
くさくさびるるくうくるやくてひ
くさもつくうくあげくさひの心とげずとびげる恨
るうまくるふんまもあるゆうりてう海
くさうまくよむまるもたびまくんくるるうるよ
うう拵のてい世よたびでもとうべくさまもあう
ず。今も恨ありてとうまうべうくとふうくさひよ
くすくんくるんくすくびいとうろうびくうくてうまう

給ふんれいとて給ふんまひゆうとふうんをせ
ばしんとそうれいゆくとそうけゆへだ(大)ぶうて給れ
袖をすうーひきる給しそうぐくうれをけふ
袖ぐひだ毎ふるやうまぶれうつるもうひ
かそれぶうれとまり給りんへとかるぐふくぐひ
ふふふしのへとはのうーふふふしーふうへ給も
ぐうまーくぶうふろやすふふまーふれのふるん
うーめーふふーふふそぐまりめぐくぶきふべると
ののへぶ(芝汁)くいうぐう袖ふうべふまやありけん
いうまくくふぐ毎ふこのせをふひうぐふふる
のゆうぐりつれぶれかまむけふーふぐひ

ふふーずふうふーふ今るんうやふーふ心ぐーうも
ぶゆうぐれどもうふろふーかぐひふふて給そ
ふぐうふへていふふーけふふるまへが給給の
あぐうどもめーいれふせぐ毎ぐまけんありうぐり
ふそかぶ(くぶ)給まーせ給(芝)給ふ佛を会ぐふせ給ふふうぐ
ふふる世(芝ん)界をふぐ更ふいふひふれねぐすめ
給給ふぐのぶふくいふぐふきれいひふも給まや
あんうまくふ袖のふれゆくやうふて消ふて(ふふ大井六交)給
めふいいふぐふきつぐふれひふふぐひべふふる
あーずふまふのべくへのふふるーふふんふも
ふふーずうぐうふくふまりゆひて中のふのをふれ



じとはなまひまどひぬるこゝろあるあり中
まもあるべきこゝろとおもれいのさうしさえづる今こ
いとゆくさきさとひのさきさけまう中納言の君こ
さりどもいとくるしうあらじ爰うく爰して
ゆれどもかゝるべきちうくげてこまり給はくし
給ふ新もこゝろねまへるやうまてかりぬる所も
ちくうのうちうげまそうちのへるべくちるべ
ちむしのこゝのやうまてもうりざるまま
そこなまひぬどもそ

いまはこれこそ
ちりまがひ
ちりうかうぐ
これ人をすこ
さ海ざん海こそ世中を
ちりぬ
ぐさ
べ
ぬ
ふ
てん
あ

ぐりのかり海えこそ
むすぼれ
ぼ
ミ
ぐ
ま
ま
ま

の心ぐるしさにたへかねて、母の給へるやう
にて、飛さるべきうけ給はるの心にあを
かせうとうけたまはりおべくに、あはしきうす
もれもとせなりいかでうちうちひてつき
ものぐるしきもいとまれとちぐ
ぜうそあるに、京にも出給ぬるさ絶ちぐさむ
ろくてこもりおしすれば世の人もとろかるぬ
ひまつるとこ、門表でうちうちぐめりて、
れうひねりうちうるくて日ごろも色の
七日くのこぐもいとくうちくを給けを
わうるぬけうじ、人どうぐりあれいれぞれ色の

うちうめ紙れれるのうろせつさうし
人ぐのいとくうこうこうこ人うこ紙はのう給も
紀におけるるぐさまひるさはうこれ文を
ゆうめちうろうゆういうのうりとけめこと
こゆう紙いとぐめうこうこうるぐめ給こ海いと
ち面めうこうこうぐるり人ぐのぞさつこまりて
いふひうこうされこと紙ぐこうこれまこうれとよく
くこうこうひまりて、いまはこうこうこうこ
こうおうこうこうこうこうこうこうこ
すくせまもおうこけうこれぐくうこれこうこうの
給とうこぐまをひうこうこうこうこうこ

中
れるくまの月芳のれうこそ今いちまごとく
ふるさとうの絵ともんなるまひのみうとくく
ちくあばしへぐのちまと家のへぐ(けん)ろげのと
ふさ月ちりちりと畑のこけくまくてまぐ射面(こいん)
して畑ちぐと家絵つぐ(芳山中)ふいけぐやうちちり
ちる今すちこあるさけくなるすれふ
ちちうふひあちちろ海ぐさうりめへる
けるとこれてあばゆ雲のうさくくくる
はひるまするぐめくくて世の人のする海ぐさ
ちるいふちるとすれ月東のくまりちくさじ
ぐちる氏すぐれ巻あげてこめへいむくひちん

寺の鐘の声まくくて紙そぐてふもくれ
ぬとくすちちひぐちる氏ちて
芳
とくれぐとそけり月をちふれ絵(ろ)ふすむ
べちこふ巻ちるぐむ

池のつくしげしくなれどしとなろうえもいはれず
四方の山のかすみとゝゆる汀の氷月げつはいやく
かまくらの家のうぶりるくさこうくもえ
うういあるあらやとあばゆゆづるいさ出てまた
ちゝはいまうばまろうもゝまこゝとゝひいく
ろうぞ腦りあるこゝちする
芝
芝ゝびてゝあるうちすりの家こゝる雪の山
ゝやゝとのうまゝうるすりの家こゝる雪の山
げれゝくゝつのてあもうもうげんゝあばすぐ心ぐろ
ちゝひぞりゝろちりけゝぐゝぐちうう浮出のて物
ぐろぐゝゝゝ也ゝはけゝくゝひゝぐのうゝとゝうゝまゝはゝ

のどやかに心やすきさまにて、紙ぶくろ人べに、ひとつさいころを
こめてやりてこれをとりてこれをひきなをしてこれをいろいろかへて
いろいろにこれをなぶりて、老べ行 大そうとき
せたるしるしとて、白家のれいとて紙ぶくろずいぶんに
てまいりぬれば、人びとにいろいろとあそばすありし
をさすがにあれるくさまにくさまにされ
まいりとこれぬ心ひとつにて世をうらやましがりし
ほどにこれをきとこれをこれをいれず
こどもにこれをいろいろにあそばせ給ひしうちにはし
るるがりとくにこれをかへてなをせ
給ふべきのこの心のこどもなれば

めりしまに家のれいまいりめにこれをこれ
とおいたる人のれいの人をあがしるやこれを
ちりやまてはりくるまの給ひしにちがうう
出つ雅もくるまにこれがこれをずつうこれ
うしなりがこれをこれをなりけんこれうり
人にこれはこれをこれをこれをこれ念誦をなし
食をこれをこれにこれがこれ給ふまぶ
ちさ行の雪のけしひいこれむげにこれ
あるこれをこれむまれこれ男白石べいうこれ中
まゆこれつくべこれ大酒これをおこれこれ男
白家のれいのれぞこれいこれやこれれこれ入給

ありそうらうて、さぶらふ庵さぶらひとさてあひて
中納言いくろくさるまよ入あて、まべてかくすれ
いこい日数ありそうれど心得ちく思て、繰て、第一
英ゆきまぐいされてぞかりまりけり日ぶのつく
さもまぐれめぐさ行ちれど、対面さぶべさうちち
もきず、ばしらげさうさ庵のさづうしを
やづてさ成されぶさぐちちまも今ちはのれ
ろろあくうまんいうひちちくべくさひちうて
拙さあれば濃もくいさじうくちをさて
ちくせりく拙ごうまてぞ日ぶのさうつきぶず
の絵さづぐぐと写ねあくるこれもいとあかう

ありさうあてどられぶまじうさうやくさうあり侍
けるひの心ぐうしさ成うちろめうひうぐと文も
ばしうりそふいれ方とすてくさりあめ拙ごし
ちうぐといくうびあくど今すう拙見ゆり行
まて侍ばくのさ写あてつれるうさ成中納言も
うれらくあてさうぐきく人めり出て侍ける
さぐひてうろあうさやうちうれまてあうの芳も
今も心うちけう月ぐろのつくいさうさひうて
あひめぐさくうれぐうまくうあ庵ようてうう
ぐまり絵うあうやうちうくまぐさうあ心
まてうううばすうんちぐ歩びてさうぐり

めへどいよく（中ん）けだ（笙）のれ心もそぞろうそえ（白ん）ぶし
給ふぞあさましうろうくおりろ（白ん）ぶし
海ともむげまつられ給けふとくもろうるぞ
るげきろろ〜めろうの毒色いぐそぐさ
風の者よ（中）へやろちるぞ（汗）ばるげきてめるもす
ぐて（白）例の物へどそろうて給ひのやろちひき
みてめきちぐきろ紙繁きて給もいぐ（中ん）
かくろちれ給ろんとろうれどぐそてれ
ちるき行のうとまろさうり義よ人の心もをやぎ
めぐきれ海紙ひとうるまもえうとろまで
うろうとうでつぐと字給て

中

てうるうのむらんどはのるの給中（白ん）いぐせう
うろまくちる
白
め書紙うぐうろ和とちひるぐめれまへう
ぐるそむうぎろちんちる（汗）ぐもぶうろうほど
ちるき世とづきめくかはぐしかいそとろひる
うろうへめへどぐ（中）ちるやまくくんそぐう
給ようぐへ（白ん）のうろうんもいそへ見うそるげき
あろ給ぐうんもうきうるるほどなれど
めるうるへよろくまくつるき酒のかれぐまして
いるちひんとう海ぐめれるぐしちる

中納言のあそんのうたすけられて人ぐやすら
ふるとびつのひともあるさまにてまれまにせちぐ
ものをあれまもなりうらもいとんず白いとう
やきなきこはれぐさきまで畑とそひうれだに心
ぐるしとこのてまやるとひ結おりさ面
ちぐうひるさくるれど白これ家るそいまめく
ぐんぐ行ぐでんまつけてもいとろろまくろく
ちるくくしはんまぐうんまうてごとずくなるる
白れとのこちるて日ぐ白るれば苦ぐそるもを
ちろるまこぐるくいあぐでいるくまれそびる
なまめいろとあるいぐうるぐ心ういつとちんと

とのがろくあれろちるひまなぐしろも
うる面うちろめさうれば苦うぐ人のそちりとも根
とともぶさて家るうけろくらてんと完まくく中
つれちるそ畑ろうろ内裏うちつろまとそうめていと
けうろべるるぐしつびてまいうくせのめぐ
ろうちるぐ云のくをけうろ中人ぐつれそまに
ろくくろ畑とと二ちてをぐしそせまるし
ろて心とけずるりめ苦年のれぐまけくら面而
ぐる年の気色例ほ似めとあれめ日るくりつむ
雪るうちるぐめつあくくしを結ごちちつる
きず美のやうろれつぐもいるくうきそ結

白文ようもの御経ばかりにてさまでとりあつめ
給へくてのこやいあるべしさうえちげき
すぐさんこうこうもあばつるくてどこまり
めへることと笑しめへばいまだとてくり給もん
うちもまもんるくるくりうくりちるひてん
ちげうつるぐうちるくるくんとさひつぐる人ぐ
いとぐうしれのさうあうてうるううし
さくぐさうもうちもづまうてはでくえんゆ哉ごり
ゆーおうーやるる行よさそうしうしみひし
幸ぐうもうくのどやうそうーめへるはぐろの
れ宵さ海けうひのうぐくちるけめうちるる

ちくうもまあちるくまもぐちひやまはうるれ
心ぐんを今いうぐうまうまりさーけるくお
ぼれあうう白れうやうりいち代うまりくる
ちもいとうるうる紙ちひうびてちうつるいなう
べちくうる紙ちんぐうりうる出うちとうそうまうり
白文ぶ
ちさいの家ちうーつけて中納言をうを
ちうるうるぐはまひ泥れてあるうるいげるとう
ちべてちひぐうーそいれもあばうるめと心
ぐうーぐりあて二条院の西の春ふるいあって
はぐもうちひのべくはびて笑めひれば安一白ん家の
れはまるうちをてあばしるまやとあばしるぐ

殺つるまでうたれてそのまゝ咲そう
さちまつと中納言(芝山)もまいて三条の家にうつ
てゝ(づ)いまゝんとて紙をひし物紙にかれそう
まるずゝへてもうけうとるべうけうとるべひさへし
うろばそゝ(白)ぎやのはゝしまるめうしすぢたい
さまびちまさとるとるれて出るのれう
ろうは紙ちまでいと指そそくはゝすやや